思春期をうまく乗り越える　その１

＊2 月 8 日（木）卒業式まで、あと 26 日。

この日，双葉中に進学する 6 年生が入学説明会に参加しました。

今回は，主に，高学年の子に当てはまる話となります。

＊最近になって我が子が親の言うことを聞かなくなったり，何を考えているのか分からなくなってきたりしてきたと感じている保護者の方はいないでしょうか。

第二次性徴の始まりとともに，心も変化しいわゆる「反抗期」というのが始まります。

個人差はありますが，特に女の子はこういった現象が現れるのが男の子よりも早いと言われています。

我々大人は，当然のことながら「思春期という時期」を経過し，大人になりました。しかし，思春期を迎える我が子に対してどのように接していけばいいのかについては，「経験知」しか知識を持っていません。

＊「思春期」という言葉があります。これは医者がつけた名称です。どうしてつけたかというと，その時期になるとたくさんの子供達が心の悩みをもって医者に相談にきます。それで仮にそのような名称をつけたのだそうです。

医者ですから生物学的に定義します。そうすると極めて明確な定義が当てはまったのです。

思春期というのは，「身長が急激に伸び始めて止まるまでの時期」というように定義しました。

これは男の子でも女の子でも皆そうです。もちろん人によって違いがあります。

ある子は5年生ぐらいから始まりますし，ある子は中学１年生から始まります。

そして，思春期というのは，心の問題として明確な4つの特徴をもちます。

第1は，今まですばらしいと思っていた価値観がそうでないという価値観に変わります。

　たとえば，教師の言うことを聞くのがいいと思っていた子が，教師の言うことなんか聞かないほうがよい，それがかっこいいんだというようなことを受け入れていきます。

今までの価値観とはまったく正反対の価値観の方がよいのではないかということが生じるのです。その程度は様々ですが多くの子にみられます。

第2は，夢とか憧れに対して強烈に望むようになります。

　通常それは人を介して行われます。ちょっとした先輩，先達という言葉がありますが，自分の先をいっている人を見本として，そういった夢を望むようになります。例えは悪いのですが，この時期に，暴走族のお兄ちゃんが思春期の子供達の夢の対象になってしまうと，あっという間にその子供は暴走族になってしまうわけです。

第3は，本当の友達が欲しくなります。

第4は，自分を受け入れてくれる人を欲するようになります。

思春期の子供達はどこかで心の脈を求めています。何でも受け入れてくれる人を欲しています。

＊この4つ全部もっていて思春期なのです。どの子にも思春期は必ずやってきます。

子供にとってとても大切なこの時期，うまく乗り越えさせることのできる大人でありたいものです。

ところで，子どもの成長にとって

「いいところを伸ばす」「欠点を直す」，どちらが大事なのでしょうか？

（次週　思春期をうまく乗り越える　その2へ）

全ての道は国語から！

＊以前扱った問題で子供たちが一番てこずった問題です。内容は5年生の算数です。

ある電車に，定員より6％多い159人の人が乗っています。この電車の定員は何人ですか。

定員を〇人として，かけ算の式に表して求めましょう。

大人が読んでもこの問題の複雑さ・難しさを感じることができることでしょう。

「定員」「6％」「□人とするかけ算の式」まずはこうした言葉がどんな意味を持っているのか捉えなくはなりません。つまり計算力以外の力を要求されている問題です。

＊ある民間教育団体の代表の方がその著書の中で「小学生の学力＝言語能力」といった意味のことを書かれていたことを思い出しました。

「たくましく生きる力」「自分で問題に立ち向かえる力」など，『学力』という言葉はいろいろな使われ方をしますので，ここでいう学力とは非常に狭い意味での学力をさしたものです。 国語の力が全ての教科の礎になっていることを感じずにいられません。

頼り上手のススメ

＊困っている友達を見たら『助けてあげる気持ちを持つ』ことはどの子にも身につけて欲しい力です。

そしてそれと同じように，いやそれ以上に

『困っている時や助けが必要な時に友達に助けを求められる，友達に頼れる』

という力を身につけてほしいと思っています。

ですから学校では子供たちに常日頃『大変だったら友達を頼りなさい。声をかけて一緒に仕事をやってもらいなさい。』と話しています。

＊そういえば昔，算数や国語で難しい問題にあたる時などにはよく冗談めかして

『ホラ，周りをよくみてみろ，算数がすごく得意って友達がいるだろう？どんどん教えてもらえ』

とか

『自分の隣にいる漢字博士にヒントをもらいなさい。』などといって『分からない立場』にいる子の方を動かすように心がけたものでした。

＊担任時代こんなこともありました。

給食の時間です。クラスの中ではおとなしいタイプのAさんが日直の日。

みんなの机拭きをするのですがAさん自身も前の授業の片付けなどがあって明らかにこの日は『出遅れ』ていました。

このままでは食器や食缶の方が先に到着してしまうのは目に見えています。

さぁ，どうするのかなぁと見ていたのですが，AさんはおしゃべりをしていたYさんに声をかけました。

Yさんも仲の良い友達とおしゃべりの真っ最中という感じだったのですがすぐにAさんに手を貸してくれました。気持ちの良いやり取りが見られました。

＊担任が声をかければすぐに多くの子が動いてくれることだとは思いますが，『見て見ぬふり』もたまには良いものだなぁと感じました。

これからの時代を生き抜く子供たちには『頼り上手』になってほしいと思っています。

お互い様の世の中ですから。

さりげないことなれど

＊出勤時のことです。

私は甲府方面から車で通勤をしています。その日も大屋敷の信号から学校に向かう途中，多くの登校班の様子を目にしました。

楽しげに話している班もあれば，班長を先頭に脇目もふらず歩いている班，ちょっといただけませんが列が乱れている班もあります。

比較的広い歩道があるのでありがたいのですが，たまに下校時，車道と歩道の間にある縁石の上を低学年の子が歩いていて危ないというご指摘をドライバーの方から受けることもあります。極めて危ない行動です。

＊この日の登校時の様子で感心したのは，（旗を持っていたので班長もしくは副班長かと思われますが）高学年の男の子が縁石に近づく低学年の子をそっと安全な位置に戻るよう促していたことです。ニコニコしながら・・・。

正直言うと，学校は登校班がもとで起こるトラブルは決して少なくはありません。

集団登校において，班長や副班長には特段何らかの責任を負わせることはないのですが，この日の光景は，優しさとともに責任感も持ち合わせている児童がいることを麗しく感じました。

意識の違い

＊ある本に次のようなことが書かれていました。

それは親と子の意識の違いについて，大きな落差があるという内容のものでした。

「お子さんをよくほめる方ですか」

「家でお家の方からよくほめられていますか」

それぞれの問いかけをお家の方，子供にしたそうです。

本当の親子ですから答えは一致しているはずです。

ところが女の子の場合はそれほどハッキリした違いはありませんが，男の子の場合は親子で極端に違いが出たというのです。

＊親は子供のことを「ほめている」と思っているのですが，子供は親からそうほめられているとは受け取っていません。これはどちらが正しいのか，ということよりも親はそれなりにほめているにもかかわらず，子供はほめられていないと思っているところに大きな問題があります。

＊例えば，プールで初めて泳げた子が喜び勇んで帰ってきた時，お家の方は，どんな声かけをするのでしょうか。

「わあ，すごい。よくやったわねえ」

とほめると思うのですが，その後，多くの方が多分，

「今度は10メートルをめざして頑張ってね。」

と続けるのではないでしょうか。このとき，子供は「ほめられた」と感じるのではなく場合によっては「がんばれ」とお尻をたたかれたと受け取るというのです。

＊ここら辺のタイミングが大切です。

昔から「三つ叱って七つほめろ」ということわざがあります。

しかしどうもこれが逆になっているようです。

ややすると「七つ叱って三つほめろ」になりがちなんてことないでしょうか。

子供が努力した時，あるいは進歩を見せた時，そんな時にこそケチらずに，思い切りほめてあげられるようになりたいものです。

それが子供をのばすコツであり，非行を防ぐことにもつながるというのです。

もちろん，教師しかりです。

脳と指先の関係

＊本の受け入りで恐縮ですが興味深い内容だったので紹介します。

＊ある大学の研究室で子供の握力を調査しました。

精神がどのように技能に影響を及ぼすかを調べるために，検査方法を次の三種類にしました。

　第一の方法は，握力計を手で握ればよいことを教師が丁寧に説明してやらせる

　第二の方法は，丁寧に説明した後で，教師が頑張るように声をかける

　第三の方法は，説明した後にかけ声をかけ，かつクラス中の子供達が声援している中でやる

この3つの方法を幼稚園児，低学年児，高学年児の3つのグループにやらせたところ，その結果顕著な違いが出たそうですがどんな結果が出たと思いますか。

＊多くの人は

「小さい子の方が声援されると興奮するでしょう。必死になってやるでしょう。高学年になると多少は興奮するでしょうけど幼稚園の子供ほどではないでしょう。だから第三の方法で，みんなに声援されながら幼稚園の子供がやった時が，反応が大きいのでは・・・・」

かなりの数の人がこのように答えたそうです。僕もそう思えました。実際，大学の研究室でも，これと同じ予測をしていたそうです。

＊しかし，結果は全く違っていました。小さい子はどの方法でやっても結果は同じだったのです。

みんなに声援されながらやると確かに顔を真っ赤にして周りの期待に応える為に必死に力を入れるのですが，結果は同じで変化はしなかったのです。大きい子の場合は，小さい子の時ほど興奮はしません。にもかかわらず，声援の中でやると，静かな時に比べて，握力計メーターの数値は上がったというのです。

＊大人の予測を全く裏切ったこの事実の原因は一体何なのでしょうか。

一年生の子供達に，給食をはやく食べさせようとして「はやく食べなさい」と，何度もせき立てても結果は同じだそうです。せき立てたり，怒鳴ったりすると，口の中にたくさんほおばったりしてはやくしようとはしますが結果は同じだそうです。

＊この事実の原因は脳で命令したことが，指先の技能として伝わるまでには何年もの成長の過程が必要であると言うことです。

同じ一人の人間の体の中で脳から指先までの1メートル足らずの間には，途方もない＜成長の年月＞が存在しているわけです。このことは，子育ての上での大切な問題を投げかけてくれています。

「しつけ」は家庭教育の根幹であり大切なもの，選び抜いたものを丁寧に教えなければなりません。しかし，あれもこれもと手を出したり，先を急ぎすぎたりするあまり「しつけ」が「おしつけ」にならないように注意することが大切だというのです。

「まるでやらない」のも「やり過ぎる」のも害が大きいのです。多いことが，急ぐことが，決していいことではないのですね。

よりよい自己イメージを描く

★10 年以上前の話となります。この双葉東小で6年を担任していた時に通信に掲載したものです。

（登場人物『かなり古め』ですが，御容赦ください）

＊一昨日，NHKニュースの冒頭で紹介されたのは「白鵬関が再び稀勢の里関に敗れる」というものでした。

奇しくも 64 連勝を止めた相手に再び横綱が屈したのですから話題になるのも頷けます。

TVでは白鵬関は前日，先場所稀勢の里関に負けた一番をビデオで繰り返し，繰り返し見て研究したと報じていました。

＊かなり古い話ですがプロ野球の日本シリーズで西武と広島が対戦した年がありました。

その第１戦は，１１対３で西武が圧勝しました。広島カープの大事な初戦の先発は当時のエース佐々岡でした。

そのシーズン，セリーグの最多勝・防御率ナンバーワンのピッチャーです。

日本シリーズは，先に4勝すれば優勝という短期決戦ですから，当然広島は佐々岡を中心にして投手のローテーションを組んできます。西武ライオンズとすれば，この佐々岡を徹底して打ち崩せば，おのずと楽な戦いになるはずです。

＊翌日の新聞には『たった６１球，初陣に涙』というタイトルで，秋山・清原・デストラーデにそれぞれホームランされた試合の模様が解説してありました。

　～力みから球が高めに浮き，制球も定まらないまま，リズムに乗る前に打たれた～

そして興味深いのは

～佐々岡の投球をビデオで徹底研究。それも佐々岡が打たれるところだけを見せて臨んだ西武打線～

とあったところです。

「相手ピッチャーをビデオで何度も見て研究をする」

これは高校野球でもやっているいわば常識的なことですが，『佐々岡が打たれる場面だけを選手に徹底的に見せた』というところにわずか3回で降板という布石があったのではないかと思います。

バッタバッタと三振を取っている姿ではなく，投げれば打たれるという佐々岡のビデオをみた西武ナインはイメージの世界の中で『たいしたことない』という確信を持ったことでしょう。

＊梅干しを見た瞬間から，酸っぱさが口の中に広がっていきます。

飛行機に乗って激しく揺れはじめると墜落を想像します。私たちは今までの体験から様々な枠組みをセットしています。どういうセットがされているかが問題です。

スポーツの世界で強豪と呼ばれるようなチームは当然ながら負けた体験よりも勝った体験が圧倒的に多く，試合をすれば勝つという情景がセットされています。勝ち癖はますますチームを強めます。

好打者といえども，7割はアウトになっています。しかし，3割の成功体験でセットされ，失敗の方はすぐに忘れているのではないでしょうか。

＊相撲素人がどうこう言えることではありませんが，もし稀勢の里関に快勝したシーンだけを白鵬関が見ていたとしたら勝負の行方はどうなっていたのでしょうか。

勝負事に「もし」や「たら」「れば」はありませんが，ちょっと興味深いことだと思いませんか。

双葉東では子供たちの自尊感情を高めるための研究をしています。

「よりよい自己イメージを描く」ためにはどんな体験を仕組み，どんな心持ちをセットさせるか，ちょっとヒントがあるような気がしました。

気持ち新たに

＊朝，登校する子供に声をかけると「おはようございます」に続いて多くの子が「おめでとうございます」のあいさつをしてくれました。きっと教室でも「おはよう」と「おめでとう」の声が入り交じったのではないでしょうか。

＊新しい年のスタートに先立ち，子供たちにはあらためて「自分の良さ」を大切にしてほしいと思います。

そして「自分の良さ」というのはその子の「個性」にも通じることがあると思っています。

私たち教育者は「個性を伸ばす」ことはできますが「個性をつくる」ことはできません。

子供たちには，自分の良さをあらためて意識して欲しい，自分を好きであって欲しい，さらに，大げさに言うと自分はかけがえのない存在であることに気がついて欲しいという想いからです。苦手なことを克服させる教育は大切ですが，得意なことを更に伸ばす教育はもっと大切だと思っています。

＊年頭の誓いとして当然ながら多くの子が新年を迎えて前向きなことを目標にしたり、願ったりしたことでしょう。ただ『想う』ことを実現させていくためには大きな壁があるようです。『頭じゃぁ分かっているのに～』という経験は大人であっても多いことでしょう。（僕は相当あります）

「夢や目標は『現実』をひっくり返して『実現』させるもの」といった人がいましたが、なるほどなぁ～分かる気がします。

＊さて，この冬休み中，御家庭から学校に対して，大きな事故や病気という連絡はありませんでした。休みに入る前に「体と心の健康を」と子供たちに向けて，話をしました。

保護者の皆様には，冬休みの間，子供たちの健やかな生活を支えていただきましてありがとうございました。新学期が始まりますが，自然災害や多くの事故・事件のニュースを目にする度にあらためて，私たち大人がまずは気を引き締めていかなくてはと感じずにはいられません。安心安全な学校であるためにしっかりと取り組んで参ります。

引き続き，「体と心の健康」について家庭での御協力をいただきますがよろしくお願いします。

一年の締めくくりをしっかりと

＊いよいよ2学期最終週に入りました。昨日も今日も一日２４時間に変わりはないのですが，今日から過ごす日々は何か特別な時間のような気がしてなりません。まだまだ体調を崩してしまう子もいますが，２０２３年の締めくくりがしっかりとできるようお互い体調管理には努めたいところです。

命の大切さは繰り返し

＊さて，今日から今週末の終業式に向けて子供たちは普段とは違った時間割で学校生活を過ごします。

すでにお知らせした通りに普段より早い時刻での下校になるときもあります。

重ねて間近に控えた冬休みを前に子供たちの中にも少しばかり浮かれ気分の雰囲気が感じられます。（心当たりがある人いませんか？）長期休業の後半に見られる『明日から新学期が始まってしまう』という悲壮感（？）に比べれば，学校から早く帰れる午後をウキウキ気分で過ごす気持ちはよく分かります。しかし，こんな時だからこそお子さんの行動について関心を持っていて欲しいと思います。

子供たちだけで過ごす家庭も多いはずでしょうから，自転車の乗り方や友達との遊びの内容について，よくよく話し合っておいて欲しいと思います。

『ロうるさいなあ』と子供から思われても，ひるむことなく親の考えを良い意味で押しつけて欲しいと思います。命の大切さは繰り返し，繰り返し語っても決してすり減ってしまうようなものではないはずです。

いじめない子に育てる親の躾

「いじめ」というのは「現象」であり「行動」である。いじめをなくすというのは，現象や行動をなくそうということである。これでは，根本の解決にはならない。いじめを起こす意志や判断の質の教育を問題にしていかなければならない。
「教室ツーウェイ」 野口芳宏

「A君より五点上だった。」

「B君より一秒速かった。」時おり子供の口から出る何気ない言葉です。でも気をつけないとこの中には大きな問題が潜んでいます。子供達の中には，他人と競争して勝つことに気を奪われがちな子もいます。このように，いつも他人に勝つことで自分の心を満足させようとしていると，排他的になってきます。この排他的な気持ちが，いじめにつながることもあります。人生観・価値観を望ましく教育し，正しい判断力を身につけさせることが必要です。

「A君より五点上だった。」「B君より一秒速かった。」こんな一言に，お家の方は何と応じますか。

「A君に勝って良かったね。」「B君に勝つなんてすごい。」こんな言葉かけはどうなのでしょうか。確かに子供に共感していますが，勝つことだけが大切であると子供に思わせることになりかねないですね。

＊では，どんな言葉かけがいいのでしょうか。

「よくがんばったね。毎日勉強をしていたもんね。」

「去年より二秒も速くなったんだね。すごいなあ。」

といった，個人の努力したことに対して目を向けるような言葉がよいのではないでしょうか。

またライバル視しているA君，B君については

「A君は残念だったね。次，頑張ってほしいなあ。」

「B君にも，あなたの練習方法を教えてあげれば。」

というような，一緒に同じ目標に向かって努力している仲間であるという見方をさせる言葉かけをしたいものですね。

もちろん，これは友達に限ったことではなく「きょうだいの関係」についてもいえそうですね。

＊今週末，通知票を渡します。多くの子は，通知票を受け取ったその場で，他のこと見せ合い，くらべ合いをします。友だちの成績に関して，かなりの情報を手にして帰ります。

通知票は毒にも薬にもなります（？）ので，使用方法をお間違えのないようお願いします。

父は忘れる

坊や，きいておくれ。おまえは，小さな手に頬をのせ，汗ばんだ額に金髪の巻き毛をくっつけて安らかに眠っているね。お父さんは，一人でこっそりおまえの部屋にやってきた。今しがたまで，お父さんは書斎で新聞を読んでいたが急に息苦しい悔恨の念に迫られた。罪の意識にさいなまされておまえの側へやってきたのだ。

お父さんは考えた。これまでわたしはお前にずいぶんつらくあたっていたのだ。お前が学校へ行く支度をしている最中にタオルで顔をちょっとなでただけだと言って叱った。靴を磨かないからと言って叱りつけた。また，持ち物を床の上に放り投げたと言っては怒鳴りつけた。今朝も食事中に小言を言った。食べ物をこぼすとか，丸飲みするとか，テーブルに肘をつくとか，パンにバターをつけすぎるとか言って叱りつけた。それから，お前は遊びに出かけるし，お父さんは停車場へ行くので，いっしょに家を出たが分かれる時，お前は振り返って手を振りながら「お父さん行ってらっしゃい。」と言った。するとお父さんは，顔をしかめて「胸を張りなさい。」と言った。

同じようなことが夕方に繰り返された。わたしが帰ってくるとお前は地面に膝をついてビー玉で遊んでいた。長靴下は膝のところが穴だらけになっていた。お父さんはお前を家へ追い返し友達の前で恥をかかせた。

「靴下は高いのだ。お前が自分で金を儲けて買うんだったら，もっと大切にするはずだ！」

これがお父さんの口から出た言葉だったのだから我ながら情けない。

それから夜になってお父さんが書斎で新聞を読んでいた時，お前は悲しげな目つきをして，おずおずと部屋に入ってきたね。うるさそうにわたしが目を上げると，お前は入り口のところでためらった。

「何の用だ。」とわたしが怒鳴ると，お前は何も言わずにさっとわたしの側に駆け寄ってきた。両の手を私の首に巻き付けて私に接吻した。お前の小さな両腕には神様がうえつけてくださった愛情がこもっていた。どんなにないがしろにされても，決して枯れ

ることのない愛情だ。やがてお前はばたばたと足音を立てて，二階の部屋に行ってしまった。

*　ところが坊や，そのすぐ後でお父さんは突然何とも言えない不安に襲われ手にしていた新聞を思わず取り落としたのだ。何という習慣にお父さんはとりつかれていたのだろう。叱ってばかりいる習慣ーまだほんの子どもに過ぎないお前にお父さんは何ということをしてきたのだろう。決してお前を愛していないわけではない。お父さんはまだ年端もゆかないお前に無理なことを期待しすぎていたのだ。お前を大人と同列に考えていたのだ。*

お前の中には善良な立派な真実なものがいっぱいある。お前の優しい心根はちょうど山の向こうから広がってくるあけぼのを見るようだ。お前がこのお父さんに飛びつきおやすみの接吻をした時，そのことがお父さんにはハッキリと分かった。他のことは問題ではない。

*　お父さんはお前に詫びたくてこうしてひざまずいているのだ。お父さんとしてはこれがお前に対するせめてもの償いだ。昼間こういうことを話してもお前には分かるまい。だが明日からはきっと良いお父さんになってみせる。お前といっしょに喜んだり，悲しんだりしよう。小言を言いたくなったら舌をかもう。*

そしてお前がまだ子どもだということを常に忘れないようにしよう。

（リヴィングストン・ラーネッド「父は忘れる」より）

＊『お前がまだ子どもだということを常に忘れないようにしよう』

親子の関係だとしても，それを子どもと教師の関係に置き換えて読んだとしても，いろいろと考えさせられます。

甲斐っ子の宝

＊甲斐市教育委員会と甲斐市小中学校生徒指導担当者会は平成 27 年度から，子供たちの生きる力を育み，社会で通用する力を身に付けることを目指して「甲斐っ子の宝」プロジェクトに取り組んでいます。

この取組は義務教育９年間を見通し，一貫性のある「生活規律」の指導を市内全小中学校が同じ歩調で行うもので，特に「整理整頓・清掃活動・あいさつ」という，基本的な生活習慣に重点を置いています。

「心をそろえる整理整頓・心を磨く清掃活動・心を伝えるさわやかなあいさつ」が甲斐市の子供たちの宝物となり，これまで以上に，子供たちが自分たちの生活に，自信や誇りを持つようになることを願っています。

＊この取組の一環で「甲斐っ子の宝　ほめ言葉 100 選」というものがあります。これは，指導者側である私たち教職員の取組となります。ほめ言葉 100 選には【あいさつ編】【整理整頓編】【清掃編】【共通編】があります。

＊例示されている 100 あるほめ言葉をどれだけ時と場に応じて使い分けられるのか，バリエーションの豊かさが試されているような気にいつもなります。

ほめ言葉はちょうど登山に例えられていて，すべてこなすと頂上にたどり着くように示されています。

試しに，自分の場合をチェックしてみたら，頂上を遥か上に見上げる 2 合目ほどでした。

まだまだ，名人にはほど遠く修行が必要なようです。「あの時の先生の言葉で救われた」とか「先生にかけてもらった言葉で人生が大きく変わった」なんて言ってもらえる境地に立ってみたいものです。

＊１２月となりました。

「師走」の文字通り我々教師も忙しく走りまわらなければならないようです。（実際には一年中駆け回っています）

学期末も近づき生活面も学習面も「充実していた」と一人ひとりが思えるようなこの一年の締めくくりが出来るよう過ごしていきたいと思います。その一方で，こうした学期末を迎える時間は心のたがが外れやすい時期でもあります。

「良いことはよい，ダメなものはダメ」というのは学校でも家庭においても同じことだと思います。

周りの雰囲気に左右されずに自分の心で判断して行動できる子供を共に育てていきましょう。

ご相談はいつでも

＊ここに書いた項目の中でいじめに遭う可能性があるのはどんなタイプの子だと思いますか。

・動作がにぶい　・言葉（方言やイントネーション）が違う　・勉強ができる　・勉強ができない　・おとなしい　・うるさくて目立つ　・貧乏　・金持ち　・すぐ泣く　・なかなか泣かない　・長所が多い　・短所が多い　・がまん強い　・がまんしない　・大人びている　・子供っぽい

＊これは，ある本で紹介されたものですが，上であげた16項目のうち，いじめに遭う可能性のあるというのは16タイプだそうです。

前に担任した子供たちに同じことを聞いてみたことがあるのですが，クラスで一番多くチェックした子でも10項目が精一杯でした。ほとんどの子は3～5項目選んだだけでした。また，その時の子供たちの傾向としては予想通りですが「マイナスイメージ」のものを数多く選んでいました。

＊「長所が多い・短所が多い」や「大人びている・子供っぽい」など考えてみると人間誰しもいずれかのタイプにあてはまりそうです。このことは何を意味するのでしょうか。本に書かれていたことをそのまま受けとめると，それは残念ながらほとんどの子がいじめの対象となる可能性があるということです。

「ある日突然・・・」とか「理由も分からないまま・・・」という最近のいじめに見られるケースでもあるようでちょっとこわい気もします。

＊さて，「意地悪をされた方は，意地悪をした方よりも鮮明にその記憶が残っている」ということが多々あります。

前に，「自分がされていやだったこと」と「自分がしてしまったいやなこと」を書いてもらったことがあったのですが「されていやだったこと」の方が「してしまったこと」よりも数多く書かれていました。

クラス内の出来事ですので，これらは本来同数になりそうなものですが，担任してきた殆どのクラスで『されていやだったこと』の方が鮮明に記憶に残るという結果となりました。

おそらくこれは大人社会でも同じような傾向となるでしょう。

＊子供が困ったり，悩んだりしていること，担任がつかみきれないこともたくさんあろうかと思います。

お家の方から見て何か気になることがありましたが遠慮なく相談をしてください。

個別懇談も今週は行っていますが，お子さんに関する相談はいつでもお受けいたします。

今後も子供たちのより良い成長に向けた話し合いの場がいつでも持てるようお願いします。

何か変だ

＊娘が小学生時代，月に1～2回，通学路で旗振りの交通当番をしていました。

交通量の激しい片側2車線ある道路を横切る際の旗振りです。多くの班が利用する交差点ですので信号が変わるのを待つ間にいくつもの班が集まります。

ここで不思議なことが起きます。

集まってくる班の子供たちに「おはようございます」と声をかけるのですが，返事がほとんど無いのです。しかし，あいさつが返ってこないことが不思議なことではありません。

本当に不思議なことはこのあと起こります。信号が変わり横断歩道を渡り出すその瞬間，一斉に「おはようございます」のあいさつがおこるのです。青信号に切り替わったことが何かの合図であるかのようにみながロ々にあいさつを始めるのです。この現象をどう考えたらよいのでしょうか。

「あいさつをしていると言えばしているのですが・・・」

変だな？と思うのは私だけでしょうか。

＊さて，双葉東小の子供たちはどうでしょうか。旗振りをしてくれているお家の方にきちんとあいさつが出来ているのでしょうか。道路を横切るときになって初めてあいさつのスイッチが入るなんていうことはないでしょうか・・・・。少しばかり心配です。それ以前に挨拶自体はどうなのかな。

＊教室には図工の時間などに描いた子供たちの作品をはじめとしていろいろな掲示物があります。

廊下にはよく習字や生活科の作品があります。

作品は画鋲でとめてあることが多いのですが，子供たちが通るたびに服がすれるのでしょう，よく画鋲が外れてしまうことがあります。しかし，「掲示物がはがれていたら

直しておいて下さい。」などという言い方だけでは残念ながら状況は余り変わりません。

「〇〇さん，掲示物を直しておいて下さい。」と個人名をいうとすぐに直してくれます。

素直といえば素直なのですが・・・・。

＊教室の換気を呼びかけた時も同様なことがありました。

「休み時間，気が付いた人が窓を開けるように」では，窓は閉ざされたままであることが散見されます。「休み時間はその日の日直が窓を開けます。」とすると休み時間窓が開けられることはぐんと増えます。もちろん『これは誰がやる仕事』という方向を示すことは大切なことですが，掲示物を直す，窓を開ける，などというのは『当番などという役決めでなく』やって欲しいなあと思います。

＊自分のテリトリー（決められている仕事）はきちんと出来るがテリトリー外のものには手を出さない，うちの学校だけに限ったことではないのでしょうが，こうした子供が多くなって来たような気がします。

ちょっとだけ周りにも目を向けよう，こんな話を子供たちには伝えています。

☆言葉遣いの乱れ

＊「親しき仲にも礼儀あり」という諺がありますが、家庭での言葉遣いはいかがでしょうか。

授業中はきちんとした言葉遣いができる子も，休み時間などは大人に対して聞いていて「ドキッ」とするようなことがあります。子供達の中には、乱暴な言葉の言い回しで会話をすることが仲の良さの証明であるかのような錯覚（！）を抱いている子もいるようですが，いくら親しみを持った大人であっても「時や場所」などはしっかりとわきまえられる人になってほしいと思います。

＊図書室の司書，保健室の養護教諭，市の職員等に対する態度がきちんとしているかが，学校規範のバロメーターの一つであるような気がします。ですので，入室や退室を含め子供の態度がどうであるのか務めてモニタリングをしています。「概ね良好」という判断をしていますが，ソーシャルスキルの向上に学校でも家庭でも努めていきましょう。

☆反抗期？

＊思春期にさしかかったこの時期の子供たちは、ややすると素直に親のいうことをきかない（きけない）時があります。全くかわいらしさのみじんも感じられない時もありますが、大人になるための通過点・通過儀礼と私たちの方が考えていくしかないかもしれませんね。

批判的に大人の行動を戒めるような言い方をするのもこの時期の子供の発達途上の特徴であるかもしれません。頭ごなしにいうだけではダメな時期にさしかかっていることを承知していなくてはならないようです。

☆学習に関して

＊来週には個別懇談もありますが「このままの成績で大丈夫でしょうか？」といった内容の相談を受けることがあります。学力だけに関していうならば日々机に向かう習慣が出来ているかどうかが1つの目安になると思います。

＊落ちこぼれをなくす研究会（略して「落研」）の代表である岸本さんは，家庭での学習時間を「学年×10分」とその著書の中で語っています。（双葉東小では学年×10分＋10分ですね。）

学習内容そのものよりもこうした姿勢（ある一定の時間を集中して過ごせる）が大切です。強制的に取り組ませることは出来ると思いますが，自分自身を突き動かすスイッチはその子しか持っていないのかもしれません。

CM の文句ではありませんが「やる気スイッチ」ON にしてあげたいものです。

校長室活用法

＊小学校時代，田んぼでいたずらをしたことがありました。翌日職員室にてＫ教頭先生に，それはもうこっぴどく叱られたことを今でもよく覚えています。Ｋ教頭先生の語り口はとても優しいのですが，場所が職員室，大人の男の人の雰囲気というものを感じたのかその迫力に圧倒されたものでした。

子供ながらに「職員室」「校長室」は敷居が高い，ちょっと怖いところ，というイメージがすっかりできあがっていたことかと思います，

＊校長職についた今，職員には「子供の指導に関して校長室を上手に活用してください」というお願いをしています。

「校長室？　子供の指導？」といえばすぐに結びつきそうなのが「校長が担任に加えてだめ押しで叱る」という行為です。校長があらためてお灸をすえるという行為です。

でも，ここで言うところの「上手な活用」とは全く逆です。

普段担任が指導に手のかかるような子を敢えて連れてきて「校長室にて校長の前で褒める」という行為です。

しかも他愛の無いようなことで良いと伝えています。

＊例えば，こんな感じです。

普段，掃除をさぼってばかりでなかなか指導が入らない子が今日に限って雑巾がけを友達と行えた時。

「校長先生，聞いてください。〇〇さん，今日の掃除，雑巾がけでみんなが気がつかないようなところまで綺麗に拭いていたんです。あまりにも嬉しくて，校長先生に報告したくなって連れてきました。」

「そうですか，校長先生は子供の頃掃除はとにかくどうやってサボろうかとばかり思っていたけれど・・〇〇さんは雑巾がけのプロですね，先生是非クラスのみんなの前でも紹介してあげてください」

この例は，低学年向け？かもしれませんが高学年なら高学年なりに褒め言葉のシャワーを浴びせることができると思います。

もちろんこれを機に掃除に取り組む姿勢ががらっと変わるとは思いませんが，折に触れた「他人からの承認」は良い刺激だと思います。

＊こんな私でも「校長」という冠をいただいているので子供からはある種の権威の象徴と見られます。

そんな「権威ある者に褒められた」という事実も大きいのでしょうが，

それ以上に「担任の先生が校長先生に自分の良いところを伝えてくれた」

という事実が大切だと思っています。

＊最も，職員にとって「敷居の高い校長室」になってはいけませんので，その点は私の修行です。

日の暮れるのが早くなりました

昨年度もお伝えしましたが「うちの子がまだ帰ってきていません。」という御連絡をいただくことが年に数回あります。学校は，原則児童の下校時刻を過ぎて留め置くようなことはありません。

「うちの子がまだ帰ってきていません。」の多くは下校途中に友達の家により込んだとか道草しながら帰ったというのがほとんどでした。

幸い危険な目に遭ったということは起きていませんが，日の暮れも次第に早くなっていますので御家庭での声かけをお願いします。

１１月１日より，冬季時間として下校時刻も午後４時１０分になります。

あわせて３点ほどお願いやら確認を・・・

（1）子供たちの行動範囲が広がりについて

　これは，どこの学校でも起こりうることです。しかし，保護者としてはずいぶんと心配をなされることであることには違いありません。学校として「ここまでは遊びに行っても良い」などという範囲を決めるわけにはいきません。また「自転車に乗ってどこまで行って良いのか」などという内容も大切な家庭教育の範疇ですので最終的には，お家での判断にゆだねることになります。

各家庭での決まり事もあろうかと思いますが，その日どこで何をしていたのかということだけはつかんでいてほしいと思います。なかには，『遊ぶ約束はしてないけど，学校に行けば誰かと遊べる』ということで校庭に出向いてくる子もいます。（これなら心配ないかもしれないのですが）

（2）遊びからの帰宅時刻について

　学校としては，「愛の鐘」を家で聴けるように帰宅を促しています。

でももしかすると「うちは5時までに帰ればいい」「うちは6時まで」「うちは決まっていない」など各家庭で帰宅時刻のルールがまちまちなことがあるかもしれません。当然グループで遊んでいる場合などは子供たちにも戸惑いが生まれるかもしれません。学校の指導と同一歩調にしていただけるとありがたいです。

（3）金銭感覚について

　経験上，友だちに「何かおごってもらったことがある」という子は，どのクラスにもきっと多いことかと思います。お金の貸し借りの経験についても，もしかすると少なくはないかもしれません。

仲の良い友だち同士であっても「お金の貸し借り」を容認する家庭はないかと思います。

時には，貸したのか，おごってあげたのかがうやむやになってしまったり，貸し借りした金額が食い違ってしまったりすることもあります。そしてそれがトラブルの原因になることも十分に考えられます。

自分自身もそうなのですが，『親の知らないところで・・・・・』と言うことがどうぞありませんように。

＊学校でもそうですが，是非御家庭でも『ここまではいいけれど，ここは絶対に譲れない』という強さを持ち合わせてください。命に関わるようなことには親の権威を思いきり振りかざしてほしいと思います。

大切なことは，繰り返し，繰り返し。

さすがは学校代表

＊陸上記録会が終わりました。今年度は練習の段階から天候を心配することもなく，当日を迎えることが出来ました。当日も素晴らしい青空の下，走，跳，投で全力を尽くすことができました。

＊スタートを前にして「緊張した～。」という声もあちらこちらで聞かれましたが，こうした緊張感の中に身をおけるような機会はそうあるものではありません。子供たちにとっては貴重な時間だったはずです。

“ゴルフはメンタルなスポーツですから”と言っていたプロゴルファーがいましたが，陸上競技もそうだと思いました。心身ともに鍛えるというのはこうした場を数多く踏んでいくことかもしれません。

＊さて，がんばった成果が十分に発揮され多くの子が自己ベストを更新したり，自己ベストに近い記録を出したりすることができたそうです。ベストが出せた人，出せずに悔しい思いをした人，思いは様々でしょうが，学校代表して立派に大会に参加できたこと，真摯な態度で競技に出場できたことをうれしく思います。

＊陸上競技は，リレーを除けばあくまでも個人の力によるものですが，

一緒に喜んでくれる友達がいたこと，

失敗を慰めてくれる友達がいたこと，

大きな声援を送ってくれる友達がいたこと，

当日まで一緒にがんばった友達がいてくれたこと，

目には見えないものですが，この6年生を見ているとこの陸上というスポーツが何か「集団競技」の様な気さえしてくるから不思議です。

＊大会では，とかく競技の記録だけに目を奪われがちですが，集合して話を聴く姿勢，応援の雰囲気，自分の競技への参加態度などいろいろなことを学ぶ機会でもありました。そのすべてにおいて及第点があげられる双葉東小の6年生でした。“何事にも一生懸命”というのは本当に美しいものです。

またこの6年生の子供たちの姿から感動を分けてもらうことができました。

それから，小瀬に足を運んでくださった保護者の方もたくさんいらっしゃいましたね。

応援ありがとうございました。

友情というのは，まるで猫みたいだ。

手に入れたいと追いかけまわすと，するりと逃げていく。

忘れていると，いつの間にかほっこり膝の上に座っていたりする。

＊子供たちの学校生活の中で大きなウエイトを示す「友達関係」。

その友達関係によって「学校が楽しい」とか「楽しくない」となることは決して珍しいことではありません。友達は自分のことをどう思っているのかな，嫌われていないかなあ，子供たちの中にはそうしたことが気になって，気になって仕方がないというタイプの子がいます。でも，その気持ちよく分かります。

＊ところでこの手の話は，どちらかというと女子に多いのですが，友達の中での自分のポジション（位置）をいつも確かめておかないと落ち着かないというのと同じ心理がはたらいているのかもしれません。

「何をして遊ぶか」が気になるのが男の子で，「誰と遊ぶか」を気にするのが女の子，これはどこの学校でも見られる光景だと思います。

＊かつて子供たちに「悩んでいることや困っていること」がないかについてアンケートを採ったことがありました。

アンケートには「困ったことがあったときに誰に相談しますか」という設問があったのですが，子供たちの回答で気になることが2つありました。

＊1つ目は，「誰にもいわない」という回答がその時には，9 人に1人の割合であったということです。

これは単に我慢強いなどということだけでは片づけられない問題をはらんでいるような気がします。

＊2つ目は，相談相手として「親」よりも「友達」を選んでいる子が多かったということです。

アンケートでは「親，友達，先生などから複数選んで良い」としてあったのですが「友達」しか選ばないという子も少なくはありませんでした。

＊私たち教師も子を持つ一人の親としても，子供と向き合っていく難しさは分かっているつもりですが，何か大事に至ったときに「親だけが知らなかった」というのではやるせないことでしょう。

学校というのは，とかく敷居が高いと思われがちかもしれませんが，気になることはいつでも学校に相談をしてください。一義的な相談窓口は担任となりますが，学年主任，管理職，以前の担任，養護教諭・・・どこからアプローチされても結構です。

＊映画評論家の故・淀川長治氏は「今までに嫌いな人に会ったことはない。」と話されています。

相手が自分のことをどう思おうとも，自分は相手のことを好意的に思う習慣が身に付いているからでしょう。相手の気持ちを推し量る前に「自分は，相手のことをどう思っているのかが」がどうやら大切なようです。

対等な関係

＊毎年「いじめ」が原因による悲しい事件が新聞テレビ等で報道されます。

残されたメモには「友達からキモイといわれた。」とか「みんなかが自分のことを避けているように感じた。」など書かれていたそうです。

このことからも分かるように子供たちの生活の中で「友達」の占める割合はとても高いのです。

「友達がいるから学校が楽しい」とか「友達とケンカをしたから学校に向かう足取りが重い」などということも珍しくはありません。

＊さて、ある本に次のようなことが書かれていました。

『私たちが生きていく上で、なぜ「友情」を結び深めることが必要なのでしょうか。

それは、これから歩む人生の道々に出くわすであろう困難を乗り越え、より充実した人生をつくるために必要なのです。

　では、友情とは友達とのどのような関係のことなのでしょうか。』

＊そこには「よい友情」とは「対等な関係」であり、その条件として6つのことをあげていました。

『よい友情とは、対等な関係のことです。

　①やりたいことをいっしょに決められる。

　②なんでも平等に分かち合うことができる。

③おたがいに信頼しあえる。

④どんな問題も、力を出し合っていっしょにのりこえられる。

⑤いいときも、悪いときも、たよりあえる。』

＊前に6年生を担任した時にこの「対等な関係」について子供たちに話したことがありました。

子供たちには、それぞれに自分にとっていわゆる「親友」と呼べる友達を思い浮かべながらこの条件一つひとつがあてはまるかどうかを考えてもらいました。

＊先に挙げた①～⑤については比較的、多くの子が「うん、大丈夫」という感じでした。

①やりたいことをいっしょに決められる。

②なんでも平等に分かち合うことができる。

③おたがいに信頼しあえる。

④どんな問題も、力を出し合っていっしょにのりこえられる。

⑤いいときも、悪いときも、たよりあえる。

しかし、6つめの条件をあげたとたんにかすかなざわめきを感じました。

その6つめの条件とはこれです。

『⑥それぞれが、ほかに友達を持っている。』

どうでしょうか。

友達関係に固執したり縛られたりするあまり，不自由になってはいないでしょうか。

学校雑風景

＊算数のテストをしている授業を参観しました。

気になったのは『文章題の読み取り』はできているのに，単純な足し算や引き算でのミスが見られたということです。

算数は積み上げの教科と良くいわれますが，改めて「再点検」する必要があるかもしれませんね。

それとあわせて「見直し」をする習慣や確かめ算の方法などといったスキルを充実させていくことが必要かもしれません。

「とにかく早ければよい」と考えている子が多いとは思いませんが，危うさというか鍛えどころが分かったような気がしました。テストが返された時に間違いの原因をちょっとだけ立ち止まって考えてみることをお勧めします。

「うっかりミス」を惜しかったという考え方もあろうかと思いますが，「うっかりミス」も実力の表れです。

＊行事盛りだくさんの２学期。運動会が終わったばかりですが６年生は，すでに陸上記録会にむけての取り組みを始めています。今週は精力的に種目決めのための記録会を行いました。

甲斐市では６年生が参加する陸上記録会は小瀬の陸上競技場を使用して実施しています。

甲斐市内の６年生７００名程が一堂に会してこの記録会が行われます。

6 年生の保護者の方にはスタンドより参観して頂くことが出来ます。

よろしければ予定の１つに加えておいてください。

＊双葉東小では陸上記録会の練習を体育の授業と放課後，全教師の指導の下に実施します。

子供たちは自分の希望をもとに「100m走　60mハードル走　1000m・800m　走り高跳び　走り幅跳び　ボール投げ」のいずれかの種目にエントリーをします。

地域によっては，各種目とも学校代表制というスタイルで運営されるところもありますが，甲斐市ではすべての児童が選手として出場をします。

＊運動は苦手という子もいるでしょうが、取組や本番を通して少しでも体を動かすことの楽しさに触れられるといいですね。

小瀬の芝生の上や競技トラックに立てるのも気持ちの良いものです。

運動会へのご参観ありがとうございました

（「手前みその話」とともに）

＊好天に恵まれ運動会が無事に終わりました。今日でいう好天は曇り空となります。

閉会式が終わったとたんに陽が差してきましたね，くれぐれも恵まれた天候でした。

＊保護者の皆様におかれましては，入れ替え観覧に御協力いただけましたことにあらためて御礼申し上げます。今年はリボンの色分けでその対応を考えましたが，色分けなど必要ないかもしれないとさえ思えました。御協力に感謝します。

＊さて，運動会特別日課の間，学年集団で活動する時間が一番多かったわけですが，それは，表現運動に大きなエネルギーを注いできたからに他なりません。

一年を通して一番多くの時間を学年で活動したことかと思います。

ですから，職員には「隣のクラスや違う学年の児童に積極的に関わって欲しい，声かけをして欲しい，褒めちぎって欲しい」とお願いしておきました。運動会を通じて職員もそれぞれの子供たちの良さを再発見することができたように思います。

＊表現は，間違いなく本番の出来が最高でした。お家の方に見てもらっているということで子供たちも大きな力を得ていたのではないかと思います。閉会式後の会場片付けにも多くの方にお力添えをいただきました。

２５張のテントも手際よく撤収することができました。本当にありがとうございました。

＊一年間を通して学校では多くの行事がありますが，運動会ほど多くの時間を費やすものはありません。（もちろん6年生の卒業式は別ですが・・・）

子供たちにとってこの経験はこれからの学校生活を行う上できっと大きな自信となったことでしょう。

また，この間，担任以外の教師とふれあうことができたのも貴重な経験であったはずです。

クラスの中とはまた違ったその子の頑張りが，運動会当日も発揮されていたようです。

運動会は終わったのですが，運動会を通して身につけた力は今後発揮されるものだと信じています。

それこそが運動会の成功であると思います。

＊さて，運動会をご覧になっての感想にも御協力ください。私たち教師もよりよい運動会をめざして反省会を持ちます。来年度の運動会については，今の時点ではどうなるか想定できませんが，保護者の方からお寄せいただいた意見も参考にさせていただきたいと思っています。

＊昼食は職員室にて全員でいただきました。美味しいお弁当でした。子供から受け取った感動も美味しい一品（！）となりました。子供たちの成長を喜び合える，こうしたことが共有できるからこそ，この仕事は「素晴らしい」と思いました。手前みその話で恐縮ですが，感性が同じである素晴らしい職員が双葉東小には集っています。

とても心地よい時間を過ごせました。涙ながらの体育主任の感動スピーチも花を添えてくれました。

＊美味しい昼食の後にはもう，運動会の後片付けとともに陸上記録会のためのポイント打ちを，職員は手分けして行っています。音楽発表会のことを相談している学年もあります。

先ほどまで子供に負けないくらい感動していたのに，いつまでもそれに浸ることはありません。

次の目標にもう進んでいきます。

ちょっと，はかないようですが，そこに教職の素晴らしさがあるような気がしてなりません。

（もう一度いいます，「手前みその話」で恐縮です）

＊いよいよ今週土曜日が運動会となります。観覧用のリボンはお手元に届いたでしょうか。

週間予報を毎日気にしながら過ごしています。

雨ばかりではなく，当日は気温が高くなるという予報も目にしています。

保護者の皆様におかれましても，どうぞ暑さ対策にも御配意いただき来校してください。

＊冒頭でも触れましたが，今回の運動会ではリボン色による観覧入れ替え制とさせていただきました。

おそらく当日は，1000 人越え,2000 人近く？の観覧者数となります。

かなりの人数ですので，駐車場の準備も含め十分な対応がとれないかもしれませんが，あらかじめ御了承ください。また，当日もアナウンス等で御案内しますが，会場ではどうぞスムーズな入れ替えに御協力をお願いします

全校をつなぐ 6 年生

＊運動会は，縦割りグループを中心に高学年が全校をつなぐ役割を果たしてくれています。5･6 年生は，自分たちの演技に力を注ぐだけでなく，当日は，朝から運動会を支える係活動を担当したり，色組全体の指導をしてくれたりしています。

学年の枠を超えた子供同士の「教えたり，教えられたり」という機会はそうあるものではありませんが，見ていてとても良い光景です。

＊先日の全校練習の場面です。縦割りグループの集合に著しく遅れてきた低学年の男の子がいました。近くにいた大人は「走りなさい」「急ぎなさい」と声を当然かけるのですが，一向に気にせず悠々と歩いています。

しかし，身体の大きい縦割りリーダー6 年生の男の子は，ニコニコしてその子に寄り添いながらおどけて走るふりでそっと急ぐことを促していました。う～ん，やさしいなぁ。

＊縦割りリーダーの 6 年生から指導を受ける下級生は，これまで以上に 6 年生を慕い実に多くのことを学ぶはずです。また，6 年生も「リーダーシップをとる」という経験から多くのことを学びます。お家の方には，こうした取組過程での成長を見ていただくことはできませんが，学校行事等を通して一回り大きくなった子供たちの姿に御注目ください。

坂本光男さんという教育に携わる方が書いた文章です。少し長いのですがその一節を紹介します。

我が子を励ます最高の言葉

＊高知県のあるお母さんは，あるとき三歳の子（男の子）に聞かれたそうです。

「お母さん，今までで一番うれしかったことは，なあに？」保育園でお家のことを話し合うために宿題が出されたのです。

この質問にお母さんは，「それは，あんたが生まれたことよ。」と何を意識するわけでもなく，ふつうに答えました。するとその子は母親の背中へ近づき，首のあたりにしがみつきました。

そして黙ったまま，いつまでもじぃっとしがみついていたというのです。

＊静岡の海で漁をやっているお父さんは，小4の息子に聞かれました。

「お父さん，今日も海へ出るの？台風が来るってよ。大丈夫？」

息子がこんなことを聞くのは，初めてだったそうです。

嬉しかったので

「だいじょうぶさ。大事に育てた息子が待っているんだ。死ぬわけがないだろう。」

と，答えました。

すると息子は立ち上がって

「ぜったいだよ。危ない時は，すぐ帰ってくるんだよ。」

と，力を込めて言ったというのです。

＊北海道釧路のお母さんの話

札幌で結婚したもののうまくいかず，夫と別れて娘（中2）と故郷へ戻ってきたのです。

ところが娘は，ツッパリ始めてしまいました。さびしさを紛らわすためか煙草を吸い，夜も遅く帰る日が多い。そこで悩んだお母さんは，ある講演を聞いた帰り道に決意したそうです。

「今夜は是非，生んで良かったといってあげよう。」と。

ところが，家に入ってみるとビックリです。娘が友達と二人で煙草を吸っているではありませんか。血が逆上しました。けれどもお母さんは，必死な思いでがまんしました。今夜は何があっても言ってあげたい・・・・。そこで

「講演を聞きながら，思い出したよ。あんたの小さい頃のことを・・・・・・・・・。」

と切り出しました。

苦労ばかりではなかった。あんたがいてくれて感激があった。やっぱり生んで良かった・・・・・。

意外な話に娘と友達はうろたえています。

「お友達のお母さんも，きっと同じ気持ちだよ。心配していると思うよ。もう，遅いから送ってあげれば。」機転を利かして，お母さんはそういいました。

これに救われた娘は，すかさず

「そうだね，そうするよ。送っていくね。」と言い，二人で戸外へ出て行きました。

それから20分ばかり。娘は帰って来るなり，いつになく明るい声でお母さんに話したそうです。

「別れる時，マスミが言ったんだ。『あんたの母さん，いい母さんだね。もうツッパリやめな。』ってさ。考えさせられちゃったなあ。」と。そしてしばらくの間，下を向いていたそうです。

＊富山県の中学2年生の女の子が『父よ，母よ』という文集にこんな言葉を書いていました。

「父よ，あなたは商売日本一。母よ，あなたの家事は日本一。私はあなたの子どもで良かった。」

やはり打てば響くのが，子どもたちです。

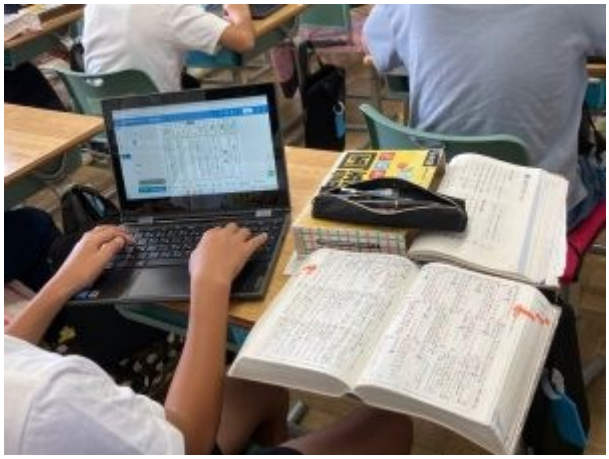
　いろいろ大変なこともあったけど，やはり生んで良かった。やっぱり育てて良かった。

親子であるがゆえ，かえって伝えづらいことたくさんあるんですけどね。

人とつきあっていくために

■15の大切なこと
①友だちのいいところをみつける。わるいところはみつけても言わない。
②同じ意見には「自分と同じだ」と考え、ちがう意見には「自分とはちがうけどすごい」と考える。
③自分の意見を言う時は、理由といっしょに言う。
④友だちが失敗した時、こまっている時こそ友だちのいいところをさがして伝えてあげる。
⑤こまっていることやなやんでいることを話せる人をみつける。
⑥「がんばれ」ではなく「がんばったね」「がんばってるね」を使うようにする。

⑦自分の意見をからだを使ってあらわすようにする。
⑧うなずきながら話をきく。
⑨おこらない。（しんこきゅう ＋ えがお）
⑩友だちの「自分でかえられないところ（性別、顔、身長、名前など）」についてからかわない。
⑪「おまえ」や「こいつ」という言いかたをやめる。
⑫「なんとかしなきゃ」ではなく「なんとかなるさ」と考えるようにする。
⑬夢中になれることをいくつもつくる。
⑭ねる前に、今日の自分のいいところをみつけてほめてあげる。
⑮うまくいかなくても　あせらない、あきらめない。



＊かなり昔の話ですが，司法書士の友達に誘われて参加した講演会での資料です。15の項目のうち，自分でいくつぐらい及第点がつけられるのか，子供たちに聞いてみたいものです。
　いや，子供たちばかりではなく私たち大人が自分自身に問うてみる必要もありそうですね。

これに尽きます（運動会モードの中で）

＊2学期が始まり 10 日間ほど経ちました。

「運動会モード」の象徴である運動会特別日課は 14 日からですが，多くの学年が運動会の取組を始めています。その中にあって6年生だけはその密度が違います。

応援を考えたり，色組活動の内容を考えたり，運動会を中心として忙しく日々を過ごしています。

6年担任を何度か経験している私から見ると運動会を控えた6年生の忙しさは「いたって当たり前」の風景なのですが，子供たちにしてみれば当然初めてのことで戸惑っている子もいるかもしれません。

それでも全校のリ―ダーとして活躍出来る絶好の機会であることには違いありません。

「立場が人をつくる」ことを期待して今日も6年ならではの活動に取り組んでいます。

＊運動会で6年生は5年生とともに表現運動を演技します。

私の立場で言うのも何ですが，高学年の演技は運動会の華の一つであると思っています。

「その学校の実力は，高学年を見れば分かる。」

と言った人がいましたが，この言葉はあながち的外れではないような気がします。

それだけに運動会という大きな行事の中で高学年である5・6年生がどんな活躍を見せられるのかはとても大切なことだと思っています。

保護者の皆様には運動会の演技だけではなく，係活動など等運動会を支える働きぶりも御覧いただければ幸いです。

運動会は当然「本番」を参観していただくわけですが，子供たちにとってはその取組過程にも大きな意味が有ります。教科の学習のように「点数」でそれを評価することは

できませんが，先人達がそうしてきたように「多くの時間をかけてまで行う価値ある行事」の一つです。

＊話が少し逸れますが，1 学期末で今年度の水泳学習を終了しました。

私は小学校時代には泳げなかったので「プールでの学習」は苦い思い出ばかりしかありません。

水泳の授業の時にはいつも「雨が降らないかな。」とか「熱が出ないかな。」とか願っていたものでした。

きっと，双葉東小の子供の中にも水泳学習に対してネガティブな想いを持っている子は少なからずいることでしょう。

今年はコロナ前の学習スタイルに戻したこともあったのでずいぶんとプールに入れる時間も確保できました。水泳は好き嫌いや得手不得手がハッキリとしているスポーツですので，学習を通して，目に見えて泳力が上がった子もいれば，反対に，残念ながら十分に力を伸ばしてあげることが出来なかった子もいます。

そしてその中には「水泳は苦手だけどイヤなことから逃げ出さずに立ち向かった」という子も多くいたことだと思います。

＊「運動嫌い」な子にとっては「運動会特別日課」など「ありがた迷惑（！）」なだけかもしれませんね。しかし，これから先，自分にとって「苦手」とか「イヤだ」と思えることがたくさん出てくることでしょう。

何であれ「頑張り抜いた」という経験はきっとその子のなかで生かされることだと思います。どうぞお家の方も上手に声かけをしてあげてください。

運動などの技能に関する「上手な声かけ」のコツはいたってシンプルです。

『徹底的に褒める』これに尽きます。

今年は「運動会」です

＊9 月 14 日（木）から運動会特別日課が始まります。
本校では，ここ数年「運動会」ではなく，「体育授業参観」としてきましたが，御案内させてもらったように半日ではありますが従来のスタイルを踏襲した形で実施します。
内容は概ね次のようなものです。
・実施日は 9 月 30 日（土），開会式は午前 8 時 40 分開始予定です。
・天候等の状況で「延期」とする場合には，当日午前 6 時頃「安心メール」にてお知らせします。
・朝の準備があるため，6 年生には午前 7 時 40 分までに登校してもらいます。
・1 年生から 5 年生まではいつも通りの集団登校となります。
・プログラム進行に問題が無ければ，１～4 年生は 12 時 20 分頃，５・６年生は 12 時 30 分の下校となります。（昼食の準備は不用です）
・プログラムは事前にお渡ししますが，天候次第で大きく変更する場合もあります。
・得点を争う種目ですが１・３・5 年生が「競争競技」，２・４・６年生は「リレー」です。
・表現ですが１～4 年生は学年毎にリズムダンスや民舞を披露します。５・6 年生はフラッグを取り入れた表現運動に挑戦します。
・このほか，全校児童が「たてわり班」で参加する「全校種目」があります。
・観覧方法の詳細は別通知にてお知らせします。観覧場所を決めて演技ごとに保護者の方に入れ替わってもらう予定です。

☆運動会の詳細、プログラムについては，通知等で改めてお知らせいたします。

＊さて，運動会特別日課では毎日１～２時間くらい運動会に関する授業があります。
中には，休み時間やすきま時間にリレーや競争競技の練習に取り組むクラスもあると思います。残暑に加えての運動強化週間（！）ですので，子供たちは汗だくになって

帰ります。元気が出る食事，毎日の洗濯，そして学校での頑張りを励ます声かけをお願いします。

＊運動会に限らず体育の授業に関して，先日担任に体育着長ズボンや長袖を脱いだ時にはきちんと自分でたたむよう指導して欲しいとお願いしました。どうも，「脱いだら脱ぎっぱなし」の子が多く見られます。これは，体育授業そのものと直接関係ないのですが，身に付けさせたい躾の一つです。
教えればすぐにできるようになります。
学校で？家庭で？などということにはこだわらず、機会をとらえて指導していきましょう。

礎をつくっている誇りを

このコラムは，以前山日新聞に掲載されたものです。

インターネットは無機質と思われていますが，むしろおどろおどろしく，生々しい感情がやりとりされる可能性があるのです。

パソコンやメールを使うのは「人間」なのですからパソコンの使い方だけでなく，人との接し方や気持ちのくみ取り方を学ぶ「人間への教育」を考えるべきでしょう。

「人間への教育」とはかつては家族の中や遊びの中で学んだことです。

今は学校から帰ると，塾に行かなければならず，遊ぶ時間が減っています。意図的にでも，人と遊ぶ時間と空間をつくらねばなりません。

桑原知子　京都大学助教授

＊学校で長いこと取り組んでいる活動の１つに「たてわり班」というものがあります。

学校によっては「ファミリー班」と呼んだり「なかよし班」などと呼んだりしています。年齢が違う子供たちの活動ですので，こうしたグループはひとくくりにすると「異年齢集団」となります。

＊昔は，遊びの中でこうした異年齢の「群れ」はどこのまちでもみられました。自分の経験で恐縮ですが，神社やお寺，学校の校庭にそれこそ，小学校 1 年生から 6 年生までが群れて遊んでいたものでした。そのコミュニティの中で，善いことも悪いことも一通り教わったり，教えたりしたものでした。

もう少し話が逸れますが，その「群れ」で一番よく遊んだのは「けいどろ（「どろけい」と呼ぶ地域も有ったようです）」でした。50 年前の話ですが，今でも「あれは，俺たちが創りだした遊びだ」と言ってはばからない同級生もおります，

＊話を戻します。本校の「たてわり班」は，１年生から6年生までが 4 色の色組に分かれて活動（主に遊び）するというものです。

呼び名はともかくとして多くの学校がこうした「たてわり」の時間を意図的に設けています。

たてわりの活動などは，効率や能率だけを追究するならば，単独の学年だけで行った方がよいかもしれません。しかし，「異年齢の活動」に教育的な価値があると本校職員は考えています。

＊学校の外に異年齢で交わる機会が薄れてしまった昨今，たてわり活動が学校の良さとしてにじみ出て来るのには，時間がかかるかもしれませんが『その礎をわたしたちが築いている』という誇りを6年生には感じてほしいものです。

「手前みそ」のような話で恐縮ですが・・・本校の6年生は，集団として本当に素直で真っすぐ物事に取り組む良さを持っています。目には見えない双葉東の伝統と双葉東文化の担い手です。

今月行われる「運動会」では児童会種目が実施される予定です。

6 年生からは「リーダーシップ」が，他学年からは「フォロアーシップ」が見てとれることだと思います。

9 月 30 日（土）の運動会では，そうした様子も是非御覧ください。

※運動会の詳細については，後日あらためてお知らせいたします。

『めんどくさい』こと

＊さぁ，2 学期がスタートしました。
休み中大きなケガや病気，事件事故等の報告はありませんでした。あらためて，御家庭での御指導に感謝申し上げます。

大きな季節の転換を含んだ 2 学期は学校として一番長い学期となります。
本日の始業式では「暑いねぇ」という言葉が交わされ，
終業式では，きっと「うわぁ，今日は特別冷えるねぇ」という声が聞かれることかと思います。
長い日々も一日一日の積み重ね，どの子にとっても毎日が実りある日々となりますように。

＊来週 28 日の月曜日は 4 時間授業ですが，翌日からは普段通りの教育活動が行

われます。運動会の取組も始まります。こうした学校のリズムに乗り遅れることがないよう月並みな言葉ですが【早寝・早起き・朝ご飯】の奨励を願います。最近は，夏休み中のラジオ体操も地域によっては 7 月中に終了すると聞きます。個人的には，夏休みが終了する終わり 10 日間くらいに実施されると生活リズムの取り返しには効果的ではなかろうかと思います。

＊『人間的に値打ちのあるものは，めんどくさいこと』
これは映画監督の山田洋次さんの言葉です。
『私はよく人間的に値打ちのあるものは，みんなめんどくさいことではないかなというふうに思うんですけれどもね。恋愛なんか実にめんどくさいゴチャゴチャしたことだし，本来教育なんていうのは，いちばんめんどくさいことでなければいけない。』
　教育がめんどくさいのは，たえず人との関わり合いの中で行われる行為だからです。しかし，この「めんどくさい行為」を通してこそ人間として成長していけるのもまた事実です。
この「めんどくささ」を楽しめるようになったら，もうしめたものです。

＊新学期になって子供たちは，家庭で，教室で，そして自分の心の中で，新たな目標を立てることでしょう。その目標が，良い意味で『ちょっとめんどくさい』ものであることを願ってやみません。

大いなる経験と小さな失敗を(No18)

＊夏休みに入ります。

月並みな言葉ですが「心身ともに健康で有意義な日々を！」と願います。

子供の頃，夏休み最終日にはいつも「あ～，明日から夏休みだったら良いのに・・・・」と毎年毎年考えていたものです。それと似たような話ですが若い頃，2 学期の始業式の後に「あ～早く冬休みにならないかなぁ。」とつぶやいていた先輩教師がいました。近くで聞いていて思わず笑ってしまいました。

双葉東小の子供たちには，そんな後ろ向きの想い（！）で 2 学期を迎えて欲しくないものです。

＊さて，夏休みにはよく「長い休みでしかできないような体験を！」というスローガンが掲げられます。子供たちにはこのスローガンのようにさまざまな体験をしてほしいと思います。

「長い休み」とは直接にはつながらないかもしれませんが，その体験の一つにこんな体験（経験）も入れてもらえると良いのになぁということがあります。

それは「失敗をする」という経験です。（もちろん，命に関わるような大きな失敗ではありませんよ）

＊これまで担任してきた子供たち（6年生であっても，いやむしろ，高学年ほど・・・？）の多くは「負けること」「失敗すること」を嫌ったものでした。時代は変わってもこうした傾向は変わってないように思います。

例えば，授業中，問題を解いているときに自分の書いたことが間違いだと気づくとそれこそ「跡形もなく消しゴムで消す」という子が多くいます。子どもたちは，ややすると授業で「間違い」をすることは良くないことと考えている節があります。間違いや失敗することを極端に恐れて身動きが取れなくなるといったことも時にありますが，こうしたことが原因かもしれません。

＊教師の中には，消しゴムは「文字の書き間違いなど必要最低限の時のみ使う」よう指導しているものもいます。子どもたちにはノートの間違いは，宝物だから残すようにと指導しています。

大きな失敗をしないためにも小さな失敗はたくさん積み重ねるべきだと思っています。

（前略）たとえ、親よりも苦労することがあっても、親よりもたくましく、親よりも粘り強く、人生を生き抜いてゆく力と知恵とを子どもに与えておく、それが一番正しい親の愛情であり、義務であると私は思います。そのためにはどうしたらいいか。結論から先に言います。負ける練習、恥をさらす訓練、カッコの悪い体験を、できるだけ多く子どもにさせておくことです。人間の体は使ったところが強くなります。これは至極簡単な原理です。その反対、使わぬところはどんどん弱くなります。

現代っ子にとって一番弱いところはどこか？負けに耐える心、恥に耐える心、カッコ悪さに耐える心です。（後略）　　相田みつを

＊1994年、ノーベル文学賞を受賞した大江健三郎さんは、同年上智大学で行われた国際家族年記念講演の締めくくりでこう述べています。

家庭とは、本当にわたしたちが安心して失敗のできる場所。

失敗してもそれで迷惑をかけた相手に憎まれないというか、そのうえであらためてお互いに和解し合うことのできる場所、

その基本的なモデルです。

＊休み中，多くのことは御家庭に委ねるわけですが，どうぞよろしくお願いします。

明日へとつながる大いなる経験と小さな失敗を十分にさせてあげてください。

進んで重い荷物を(No17)

＊大学時代（もう，ン十年も前の話ですね）に山梨幼児野外研という研究会のお手伝いをした時期がありました。幼稚園生を夏と冬にキャンプにつれていくというのが大きな行事でした。キャンプでは現役の幼稚園・保育所の先生とも一緒になって「キャンプカウンセラー」として子供たちのお世話をしました。

キャンプの最終日，真っ黒になった年長さんの子供たちに向かって，ある保育園の先生がこんな話をしてくれたことがありました。

「重い荷物と軽い荷物があった時に，すすんで重い荷物が持てる人になってください。」

わずか5・6才の子に向けられた言葉ですがその時のことは良くおぼえています。

＊担任時代，Aさんは山積みになっている漢字ノートをごそっとつかんで，いつもみんなに配ってくれました。Aさんとは違い，山積みされているノートの山から自分のものだけを抜き取ろうとした子がいたので「友だちの分も配ってくれない？」とお願いをしたことを思い出します。

＊給食の皿は食器かごに2カ所に分けておくとうまく収まります。1カ所に重ねるとその分高くなってしまうので積み上げた皿は大きく食器かごからははみ出してしまいます。その日のクラスのスープ皿は，かごから大きく飛び出して積み重ねられていました。途中で気がついた子はいなかったのでしょうか。そのことを注意しようとしたその時，変に積み重なった食器をB子さんが直してくれていました。

＊「気がつくこと」と「気がついたことを行動に移せること」には考えている以上に大きな壁があるのかもしれませんね。

国民性？（No16）

＊サッカーが好きです。

小学生の頃は，野球小僧でしたがワールドカップを観て火がつきました。ワールドカップと言ってもとても古く，「ドーハの悲劇」「ジョホーバルの歓喜」ですがね。

何十年前なんでしょう，それを機にすっかりと虜になってしまいました。

＊さて，次の言葉は元JAPANの大黒柱・中田英寿さんの言葉です。

周りにあわせるような人たちがたくさんいるから，成長しないと思う。

自分の意志をもっとハッキリ伝えないといけない。

日本の国民性の流されちゃう部分，怖いというか何で流される必要があるのか，

よく分からない。

＊みんなと一緒にしていれば安心です。みんなにあわせていればいいので自分で考える必要がありません。失敗してもみんなも同じなので痛みは軽くて済みます。責任を自分が取らなくてもいいので楽です。

世の中，こういう傾向が強いので，これが日本の国民性だと言われることも多いかと思います。日常を振り返ると，そういわれても仕方がないと思えることがいくつもあります。

「周りにあわせてばっかりいるから成長しないんだ！」と中田選手に一喝された気持ちになります。

＊話し合い活動の時など少数意見の立場に立っても物怖じせずに自分の考えを貫き通せる子はステキです。どのクラスにもそうした子はいます。

大切なことはそうした学習の開拓者（フロンティア）に本来はどの子もなれるはずだという立場に指導者が立つことだと思っています。

「どの子も無限の可能性がある」ということを口で言うのは簡単です。でも子どもたちには伝わりません。

「どの子も無限の可能性がある」ということを事実で示していくことが肝心です。

「え？クラスで一人だけが正解だったぁ！」とか

「（普段あまり発言しないと思われている）子が話すことに実は真理が隠れていたことに気づいたとき」一人ひとりは成長します。

そしてそれがクラス全体の成長に波及していきます。

そうした場を演出していくことが教師に課せられた務めの一つであるような気がしてなりません。

学校雑風景（No15）

＊前にあったできごとです。休み時間，職員室に5，６人ほどの１年生が校庭から駆け込んできました。

みな，かなり興奮しています。良く見ると1人の男の子が大きなカマキリを持っています。

その子を取り囲むようにして周りの子の視線もカマキリに集中しています。

興奮が抑えられなかったのか，下足のまま職員室に入っている子もいました（笑）

＊さて，捕まえたカマキリを自慢したい，何としてもこのカマキリを持ち帰りたい，そんな思いであることはすぐに分かりました。あいにく，職員室に虫かごはないので，その場にいた先生がビニル袋を一枚渡しました。

＊これでとりあえず，教室までは持ち帰れそうです。

ここで，誰かが言います。「息ができなくて死んじゃうよ。」

別の子が言います。「穴あければ大丈夫だよ。」

たたみかけるようにまた別の子が「え，でも穴あけたらそこから逃げちゃうよ。」

「袋をゆるくもてば・・・・」しばしその様子をはたから眺めさせてもらいました。

担任の先生も余計なことは言わずに微笑んでことの成り行きをみています。

『（あ～平和な時間だなぁ）』

＊こんなやりとりは子供の世界では日常的に起きています。

それがもとでいさかいになってしまうこともあります。

でも，時として大人が簡単に正解を与えず静観することも必要な気がします。

『お互い様』の関係の中で折り合いをつける力，育てたいものです。

＊さてあと数日で夏休みになります。各ご家庭でも，既にあれこれ予定を立てていらっしゃることでしょう。子供たちには，長い休み楽しい思い出をたくさんつくってもらいたいものです。

＊休み中は自分で過ごす時間が増えることでしょう。また，行動範囲もかなり広がるものと思われます。

お金の使い方について，是非，ご家庭で把握していただきたいと思います。

お金の貸し借りなどのトラブルは小学校低学年であっても見られます。

子供が出かけたときにどのくらいのお金を使ったのか，友だちとの貸し借りはないのかなど，是非，気をつけて目をかけてください。「おごったり，おごられたり」もとても心配です。

自分で与えられた範囲のお金を使う練習をするのも正しい金銭感覚を養う上では，非常に大切な経験になります。

＊時間の使い方についても，自由な時間がある夏休みだからこそ，子どもたちに考えて取り組ませたいものです。時間は十分あるのに意外に何もせず，ぼうっと半日くらいゲームをしたりテレビを見たりする子供もいそうです。時には，何も考えずにのんびり過ごすのも良いことですが，毎日毎日何も考えずに過ごし，あっという間に2学期になってしまった・・・では，やはり夏休みを終えての充実感は得られないでしょう。

＊お金と時間。これはどちらも自分でうまく使いこなせるようにしていくものです。しかし，大人の私たちにとっても難しいことです。なぜなら，どちらもうまく使いこなすには自制(我慢)や様々な判断が必要になるからです。

だからこそ，大人が徐々に子どもたちに伝え，時に教え，賢く使いこなせるようにするため，目をかける必要があります。「いきなりやれ」では無理です。この夏休み，そんな視点を持って子どもたちに接していただければ，子供たちも，一人の生活者として成長していくのではないでしょうか。

「あ～，もう少し夏休みがあればなぁ」なんて2学期始業式の日に口にすることがありませんように（笑）

子供の「分からない」にこたえていく（No14）

＊担任時代，お母さんから『家で，算数をどのように勉強させたらよいでしょうか？』といった内容の相談を受けたことがありました。お家の方が子供の勉強を見てやる場合，たまにではなく，毎日，しかも子供に苦痛を感じさせない程度に見てあげるというのが大変効果的な方法です。とは言ってもこれが難しいのですが・・・。

＊家で勉強の世話をみるとき「正確に，そして速く」が要求される計算問題と違って文章題に代表される応用問題はじっくりと考える力が必要になってきます。

しかし，こうした力は，すぐに身につくわけではありません。

『急がば回れ！』ではないですが，焦ったり，あわてたりしないことも肝心です。

小学生の間なら，じっくりと構えても取り戻せないことはありません。

子供がつまずいたら，少しずつ前に戻ってわからないところを探すのがよいでしょう。

この時，わかるところから復習させるのが大切なポイントです。子供がつまずいた場合には『わかる段階まで思い切って戻ってそこから復習させる。』ことが大切です。

結果的にはこれが一番の近道だと思います。

＊しかし，子供の性格によっては次のような方法も考えられます。

タイプ－１　分からないところを見つけ，計算方法ではなく，なぜそうなるのかを意味から根気良く教える。意味が分からないためやる気を起こさず出来ない子がいます。これは理屈っぽい子に向く方法です。

タイプ－２　少々冒険ですが，出来ないところは目をつむり好きなところ，出来るところを勉強させていく。我が道をいくというタイプの子に向いています。出来るところを勉強するうちに出来ないところも少しずつ出来るようになります。

＊私の娘は，もう成人していますが，小学校時代には父親として子供の宿題の面倒を見たことも多々ありました。しかし，毎回と言って良いほど，その都度ケンカ別れしていたものです。

教師という仕事をしていても自分の子供の指導となるとなかなか難しいものだと感じています。

同じことを感じていらっしゃる保護者の方も少なくないだろうと思います。

学校雑風景（No13）

＊メリハリのある生活というのが好きです。

楽しむ時には楽しむけど，集中する時には集中するといったことが好きです。

以前一緒に勤めた先生の教室のクラス目標は「やるときゃぁ　やる」といったものでした。

初めて見たときには，大いに笑い，大いに同感したものでした。

＊担任時代には，折に触れて教室でそうしたことを子どもたちに語ってきました。

ですから大切なことを話す時には，無駄口が消えるまで絶対に話さないようにしていました。

根負け（？）しそうな時もありましたが，時間をかけても身につけさせたいことの一つだと思っていました。

＊誤解のないように少しだけ釈明させてもらいますが，これは何も『教師が話すのだから聞けよ』などと言うおごったものではありません。前に立つのが教師であっても、友達であっても同じように振る舞えることを要求したものです。

『友だちを大切にする』『人を大切にする』それはまずその人の声に耳を傾けることから始まるのだと思っています。その人が話すことをきちんと聞いた上で反応してあげる，そんな関係を築かせたいものです。ですから「頂きます」の挨拶も，「さようなら」の挨拶もその前にはまず完全なる沈黙を求めたいものです。

そして挨拶を交わした後は，ぱぁっと解放されるような楽しさでにぎやかになる,そんなメリハリのあるクラスの生活にあこがれます。

＊6 月29日(木)1年生と2年生の防犯教室を行いました。

この学習には，リズムオブラブ主宰で健康安全郷育アドバイザーの渡辺光美さんを講師としてお招きしました。渡辺さんは「やまなし大使」としても活躍されています。

私が，県庁勤めだったころに渡辺さんの研修を担当させてもらったことがあったのですが，そのバイタリティ溢れる内容に，いつか本校に講師として来ていただくことを考えていました。

防犯教室の大きなテーマは【かけがえのない大切な命を自分で守る心と体づくり】です。

元気いっぱいの１年生，２年生が身体全体を大きく使って自分の命を守ることを学習しました。

学校雑風景（No12）

＊現在６７９名の児童が在籍していますが，児童数に対して双葉東小の校庭は決して広いものではありません。休み時間の校庭を見ると大勢の子が外で遊んでいますが，やはり子供の数に見合っていない広さだと感じずにはいられません。

＊学校のきまりとして校庭での遊び方もたびたび教師の間で話題に上がります。

数年前から校庭を区切って子供たちは決められたエリアで遊ぶことになっています。

5･6 年のサッカーゾーンはここ，一輪車ならこのエリアといった具合です。

そのためサッカーボールが校庭を縦横無尽に飛び回ったりとか，ドッジボールを楽しんでいる子の前を鬼ごっこの 1 年生がふいに横切ったりなんてことは起きなくなりました。

おかげで大きなけがや大きなトラブルにつながりにくくなっています。

＊しかしその一方で校庭を区切らなくても上手に遊んだり，遊びづらさを自分たちで解決したりという知恵を使う機会も減っています。

子供の安全というのは揺るぎない目標ですが，賢く生きる術・たくましく生きる力を身につけさせるのも学校教育の大きな目標です。

遊びエリアを設けるのも 1 つの教育方針，設けないのも同様です。

どちらが良くてどちらが悪いと言うことはありません。

梅雨の晴れ間，今日も元気に校庭で遊ぶ子供たちの姿を見ていて色々と考えさせられます。

＊さて６月２６日（月）から個別懇談が始まります。

「子供の健やかな成長のために担任と保護者が共通理解を図る」というのが目的となります。短い時間ですが有意義な時間になるとよいと思います。御協力をお願いします。

＊昨年度と同じお願いとなりますが，学校で過ごす時間だけでなく，家庭にあっても，お子さんの成長，学習理解度，性格行動，登校渋り，障害等の疑い，こころの問題など御心配なことがありましたらぜひこの個別懇談の機会に御相談ください。

本校のスクールカウンセラー，甲斐市の相談窓口やカウンセラー，県の相談窓口等を御紹介できます。

＊個別懇談の折りには

「子供の健やかな成長のために」担任から保護者の方にお願い等をさせていただくことがあります。（恐縮です）

「子供の健やかな成長のために」学校（担任）への要望も是非してください。（遠慮無く）

これまた，昨年度と同じく，変わらぬお願いです。

大切にしたいこと（No11）

＊漢字を身につけるときには，量を書く（つまりたくさん練習する）ことも大切だけれど，それと同じくらいに，いやそれ以上に『丁寧に書く』という要素が不可欠です。

時折，子どもの漢字ノートをのぞいてみてください。

間違いがあったり，雑（字が汚いとは違います。）になったりしてはいないでしょうか。

＊宿題でも漢字練習を課しているクラスは多いと思うのですが，担任時代は「とめ」「はらい」に加え「二度書き」「マスから飛び出す字」反対に「マスにくらべて文字が小さい」などといったことがとても気になったものでした。中には，送り仮名の「平仮名」を雑に書いている子もいたので，その都度注意をしたものでした。

それは，心配なのが，漢字の間違いよりもむしろ「丁寧さに欠ける」という面だからです。

何事にも通用する力は，「学力」よりも「努力」といったものであるような気がします。

＊余談ですが，担任時代はテストに書く「学年・組・氏名」は特に丁寧に書くよう指導してきました。明らかに手を抜いて雑にそれを書いていると思える子のテストは点数をつけないまま返していました。

（もちろん，丁寧に書き直せば点数をつけてあげましたが・・・・）

算数ノートでも・・・

＊ある本に，算数での間違いの何割かは「位取りにある」ということが書かれていました。

本の受け入りだけではないのですが，全く同じことを感じています。

ですから，算数ノートは学年でそろえて同じ基準（例えば「１０㎜マス」）のものを購入していました。

漢字練習に限らず算数でもノートに「いかに丁寧に取り組んでいるのか」が大切なポイントになります。

＊算数の授業の中では，発達段階に応じてノートについては，次のようなことをどのクラスでも指導してほしいと思います。

１）問題と問題の間隔は十分に開けること，

２）筆算や答えを書き表す線は必ず定規を使って引くこと，

＊いちいち定規を使って線を引くのでちょっと面倒な気がしますが，慣れてしまうと自然に使えるようになります。そしてノートも見違えるように引き締まってきます。

ちなみに筆算などに定規を使うというのは「国立大学の附属小」では常識であると言われています。

時々抜き打ち点検を（笑）

＊お子さんが今どんな筆箱を持っているか（使っているか）ご存じですか？

子どもの世界でも流行りすたりがあるようですが，全体的にはかなりの数の文具を大きめの筆箱（筆袋？）に入れて持ち歩くのがお洒落（！）なようです。この傾向は高学年になるにつれて強まってきます。中には，机の中に筆箱を入れることに苦労する子もいるほどです。（笑うに笑えない状況です）

＊消しゴム，赤ペン，定規それに削ってある鉛筆さえあれば授業に支障をきたすことはありません。

中には実用性よりも別の面を追求しているように見える子もいます。

筆箱の中身，一度ご覧になってくださいね。

＊また，小学校の中学年あたりから子どもたちの中には自立心が育ってきます。

その自立心が発達しているからこそ，物やお金のトラブルが起きることがあります。

以前ある先生から

『何か心の乱れがあると，持ち物に変化がある』

と教えてもらったことがありました。

そういう意味では，子どもの持ち物にいつも注意を払っておいてください。

小遣いの範囲を超えるような小物が増えている時などは要注意です。

学校雑風（NO10）

＊先月引率した修学旅行の集合写真を手にしました。何かとても昔のような気がしているのは教師だけでしょうか。それでも写真の中の子供たちの笑顔を見ると楽しかったあの３日間がよみがえってきます。

＊さて，大人であれ子どもであれ，集合写真を手にした時に真っ先にさがすのはおそらく自分自身でしょう。

友達でもなく，好きな人（？）でもなく，世の中で一番気になる存在はやはり自分自身なんだとあらためて思います。

写真に写ったあなたは，いい顔をしていましたか？

その時を十分に楽しんでいる様子でしたか？

＊『友達の頭を使って学習する』

ことを授業中よく話してきました。ですから授業中にはよく次のような指示を出したものです。

・隣の人と答えを比べてみなさい。

・クラスの中で自分と同じ考え方をしている人を３人見つけなさい。

・友達の発表を聞いて自分の考えと同じだと思ったらノートに小さく〇を，違うと思ったら×をつけなさい。

これらは「友達がいるからこその学習を」としてちょっとした作業を取り入れるようにしたものです。

＊正解，不正解を問わず友達の考え方をいろいろ知ることが出来るのが学校で学ぶ良いところです。

特に算数は問題を解く場合に正解は一つですが，そこに行き着く考え方は何通りもあるので，グループで話し合わせたり，あえて間違いを全体で考えさせたりしたものです。

＊担任をしているときには，かなりノート指導には力を入れてきました。その一つとして『間違いは宝なので消さないように』という指示もよくしました。しかし，これは定着するまでに随分と時間を要しました。

多くの子が間違いを「失敗」ととらえ，「失敗をノートに残すなんて・・・・。」という抵抗があったからでしょう。

＊先日，職員の打ち合わせの中で，各学年に3つのお願いをしました。

①「クロームブック」の家庭での活用を進めていただきたいこと。

②「ノート指導」の在り方を学年で確認し，指導してほしいこと。

③学年全体で集まる機会を月に何回かは設定すること。

学年による発達段階の違いはあるので，一概には言えませんが，「ノート指導」の在り方などは，学年足並みを揃えて子供たちの成長を担うものであってほしいと思います。

さりげないことです（NO9）

＊長年教師をやっているのでたくさんの教え子が出来ます。毎年のように増えていきます。

大きくなった教え子もいます。教師という同じ職に就いている子もいます。研究会などであって声をかけられるとかつての拙い仕事を見透かされているようで照れくさい気さえします。

＊多くの教え子を見ていて思うことがあります。

それは小学校時代に「勉強が出来るか，どうか」ということは，その子の将来にとっては，ほとんどどうでもいいということです。

幸福になったか，不幸になったかという点から考えれば，これは「全く関係ない」と言えるでしょう。

仮に勉強が出来て（いわゆる）良い学校（！）へ行った子の良さを一ついうならば，それは職業選択の幅が広いということと多くの人と巡り会えるチャンスが多いかもしれないということでしょうか。

でも，これさえ人によります。

＊自分に向いた道があり仕事があるなら，勉強が出来たかどうかはほとんどどうでもいいということです。

テストで100点を取ろうが取るまいが大した問題ではないということです。

しかし，「100点を取れる努力をした」ということはほめられていいでしょう。例えば，漢字などは練習した子は出来るし，練習しない子は出来ないものです。そして，多くの教師がおそらく「練習した子」つまり「努力した子」を「努力しない子」よりいくぶん高く評価することでしょう。

それは「努力する」ということは，どこでも通用する力だからです。他のことにもきっと努力をするだろうと思えるからです。

ただ，「いくぶん高く」とあるのは，人間というのはこんな程度のことで云々出来るほど単純ではないからです。人間とはもっと幅広く，奥深い生き物のはずです。

＊しかし，子どもと接していて学業の成績を抜きにして「すごい！！」と思える場面に出合うことが時にあります。高く評価することがあります。

担任をしていた時の話です。

理科のテストをしました。テストが終わった子からテストを提出するよう指示しました。子どもたちは比較的スラスラと解いていたようでした。一人の子が提出をすると次から次へとテストを終えた子が答案を提出していました。

ある子がテストを出しに来た時，その子は乱雑に積み重ねられた答案をきれいにまとめてから自分の席に戻っていきました。

さりげない動作でした。

＊100点を続けて10回とってもすごいとは思いませんが，テストを出しに来たその慌ただしさの中で乱雑に積み上げられたテストを両手でトントンと整理していったその子の行為はすごいと思いました。

自分の子供も同じことができるといいなぁと思いました。

判断基準（No8）

＊外国によっては「自分が信じる神の教え」を自分の行動の判断基準にしている所があります。

こんな話があります。ある大きな商談をまとめようと外国の営業マンと話していた時のことです。

商談の中で外国の営業マンが切り出します。

「ところで，あなたは何の神を信じているのですか。」

日本人の営業マンは笑顔で答えます。

「私は，神など信じていません。信仰している宗教もありませんよ。」と。

それを聞くととたんに相手の顔が曇り，まとまりかけていた商談はご破算となったそうです。

＊「『信じるものが無い』などという相手は信用がおけない，取引など出来ない」というのがその理由だったそうです。これは極端な例でしょうが，日本人の多くはそうした神を心に持ちあわせていないような気がします。

＊さて，「神」はなくてもいつも心の真ん中にあるもの，いつも自分自身を見ていてくれるもの，自分自身を励まし，時に律してくれるもの，行動の価値判断の基準になるもの，それが「自律の心」であるような気がしてなりません。

＊「こんなことをすると担任の先生に怒られるからやらない」というのは残念ながら私たち双葉東小の職員が目指す教育ではありません。

私たちは大人の顔色をうかがって行動するような子どもたちを育てたいわけではありません。

大げさにいうと中学生になっても，高校生になっても，そして大人になっても通用していく力の礎を育てたいのです。

＊そうした心持ちを「つくる」のではなく「育てる」のです。

もともとその子の中にあったものを伸ばすお手伝いをするだけですから「つくる」のではなく「育てる」というのが正しい表現だと思っています。

迷うようなことがあったときにいつでも正しい判断が出来るような「自律」の心を育てたいのです。

「これはしてもいいのか」と自分に問いかけたときに正しい答えが導き出せるような「自律」の心を育てたいものです。

＊先日職員の打合せの中で，5 月とはいえ，暑い日もあるので「外遊びをするときには帽子をかぶることを徹底させましょう」ということが話題になりました。

熱中症対策として「活動前に水分を補給する，帽子をかぶる」は必須です。

子供たちも帽子をかぶる必要性は十分理解しているのですが，679 人もいると，中には・・・。

＊また，先日は地域の方から「遊んでいた子がゴミを散らかして困る」との連絡を受けました。一度各クラスでこのことは指導しましたが，今回は二度目。どうやら同じ場所で同じことが起きています。

＊「校庭で遊ぶときは、帽子をかぶるのですよ。」「ゴミは自分で持ち帰るのですよ。」

こうした指導はどのクラスでもします。

担任の先生方にお願いしたのは，素直に教師の指導を聞き入れる子どもの育成も大切だけれど，その時，周りにいた子が「その子に声をかける，そしてその子がそれを受け入れる関係」を学級の中で醸成してほしいということです。

学級集団だからこそ，学校という集団だからこそ「自律」を支え合える仲間であってほしいと思います。

理想の指導者（NO7）

＊随分前の新聞記事です。

『理想の指導者とは，どうあるべきか，組織はどうあるべきか』

を考えるときに，北海道の中学教師がまとめたこの話は，いつまでも色あせない内容として私の心に残っています。

＊学校の在り方が問われ，保護者の方から，教師への要求やクレームが増えた頃，その先生は考えました。

「こんなに一生懸命仕事をしているのに，なぜこんなに責められるのだろうか。」

そこで，世間が求める理想の教師・指導者とは何であるのかを調べたというのです。

はじめに手がけたのは，逆の発想なのですが「教師に対する批判内容」をとにかく調べるということでした。

批判内容として相反するものを探ることで、理想の指導者にとって大切なものが何であるのかのヒントが得られるのでは，と考えたわけです。

そこでインターネットで『教師』『不祥事』といったキーワードを検索，大量にヒットした内容を丁寧に分析したといいます。

＊その先生は，調べたことをまとめ，理想の指導者像をピラミッドに表しました。

ピラミッドは大きく 3 段になっていますが，一番下の段，つまり，ピラミッドの土台として描かれたのは『生活力・モラル』でした。なるほどです。

＊3 段あるピラミッドの中段は左右に分かれています。

右が『事務力』，左が『指導力』

事務力は「教務力・研究力・緻密性」から成り立ちます。

私が苦手な部分です。

指導力は「父性型・母性型・友人型」から成り立ちます。これはタイプが分かれるところでしょう。

それぞれ詳しく説明すると

「父性型は，規範を率先して実行できる力」

「母性型は，優しく包み込む力」

「友人型は，子供と対等につきあえる力」だそうです。

＊そしてピラミッドのトップに位置するのが『創造性・先見性』です。

＊さて，指導力の父性型・母性型・友人型を考えたときに、私自身は父性型だと思っています。

子供に癒しを与えるA先生は母性型だろうし，子供とフランクにつきあえるB先生は紛れもなく友人型であると言えます。お子さんの担任は何タイプでしょうかね。

＊本題に戻します。

実は，作者である先生は，これらの分析結果を見て唖然としてしまいます。

規範を率先して実行する父性型，優しく包み込む母性型，子供と対等につきあえる友人型であり，かつ教務力・研究力・緻密性に長けている人物・・・・・・・・・。

こうした世間の要求に1人で応えられる指導者（教師）などあり得ないからです。

理想の教師を求めながら、理想の教師たることは不可能だと気付かされるのです。

＊作者である先生は御自身のことを

「声が大きく，明るい性格である自分自身は，父性型と友人型の指導力があって，事務力にやや不安がある」と分析しています。そこで，すべてを独力に頼らず，「母性型の指導力を持つ教師に、精神面の弱い子供の指導の援助を頼んだり，事務力の高い教師には，書類の点検作業を任せたり，分業・協働を図った。」というのです。

＊学校も会社も『組織で対応する』と言います。

これは，一人一人が万能であることをめざすのではなく，得意不得意，向き不向きを最大限に生かすことに他ならないわけです。

多様な人材でチームをつくる，互いの弱点を補完しつつ子供の育成に努める。

『これは任せて，でもこれはお願い。』

『苦手なことで助けられたら、得意なことで返せば良い。』

と言ったことができる組織でありたいと思います。

＊理想の組織とは，「職場で【お互い様】を築ける組織」のことであるような気がしてなりません。

「持ちつ持たれつ」子供の世界もこれと同じで，【お互い様】が大切にされる友達関係であったり，クラス環境であったりして欲しいと思います。

学校雑風景（No6）

＊小学校の時，授業が休み時間に食い込む担任の先生がいました。

誠実で優しい先生であったのですが，その部分はあまり好きではありませんでした。

＊休み時間は，子どもにとっても教師にとっても気持ちをリフレッシュする潤滑油のように思えます。私も担任時代はよく外で遊んだものでした。（遊んでもらっていました）

休み時間終了のチャイムは鳴りますが，子ども達には，自分で判断して時間を守るようお願いしました。　あわせて，教師には，授業時間を守るようお願いしました。

時間になったら特別なことがない限り授業はぴたっと終わりたいものです。

教師が時間を守ってこそ「君たちも時間を守って授業が始められるようにしてください。」と自信を持って指導できるのだと思います。

＊中休み終わりの 10：35，昼休み終わりの 13：20。

休み時間始まりの校庭に出てくる時ほどの勢いはありませんが，教室に引き返す時，潔く駆け足（！）で戻る姿は良いものです。

＊先日，ある子がA教諭に対して同等の言葉遣い（子ども風にいうと「タメロ」）をしていたので注意をしました。

優しいA教諭のことですからさして気にもとめない様子で受け流してくれていたようですが，端から見ているとあまりいいものではありませんでした。

校長には，いつも敬語をきちんと使っている子です。

悪い意味でその場その場で（相手によって）使い分けているような気がしました。

これは「教師だから敬意を払え」というものではありません。

その子が将来，人と上手く関わっている術を大人の一人である職員をモデルとして学んで欲しいという思いからです。

「親しき仲にも礼儀有り」教師も「タメロ」が親しみの表現と勘違いしてはいけないとお願いをしています。

過去と他人は変えられないが，

未来と自分は変えられる（No5）

＊ある先生から教えていただいた言葉ですが，とても好きな言葉です。

物事を前向きに，積極的に見ていこうという想いが伝わってきます。

　自分の過去がどうであったかとか，

　現在の自分がどうであるのかということではなく，

「自分がどんな人間になろうとしているか」という未来に向けた考え方こそが大切であるというのです。

＊こうした想いはもちろん我が校の子供達にも持ち続けて欲しいと思っています。

彼らにも，今までの自分をより高めていけるような人になって欲しいと思います。

それは自分を変えていけるのは自分だけしかないからです。

ですから「出来そうもない」とか「性格だからしょうがない」とか「自分には無理だ」とかいうマイナス思考から発生する想いだけは持って欲しくありません。

殻を破る（NO5）

＊「他人や過去」は変えることはできません。変えることができるのは，「自分と未来」です。

「こうなれたらいいなあ」という想いを描き続けていくことが大切です。

大きなことはできなくていいのです。

でも時には，「恥ずかしさ」や「自信のなさを」を乗り越えて，今までの自分の殻を破る時が無くてはなりません。

そのためには，自分自身を成長させる様な場に自らを立たせることが必要になってきます。

例えば，クラスの大切な仕事を引き受けたりクラスの代表などに進んで立候補したりという経験を積んでいくことがそうです。

＊４月１９日に，任命式を行いました。

３年生以上の各クラス代表に選ばれた子に任命書を渡すセレモニーです。

クラス代表に至るには「立候補」もあったでしょう。「推薦」もあったことでしょう。

＊さて，次にあるのは，１２年前にこの学校で６年生を担任していたときの一コマです。

＜当時の学級通信となります＞

５年生までと違い，６年生になると児童会の活動にもこれ以上に積極的に関わっていきます。

委員会やたてわり活動で中心的な役割を担うのはもちろんのこと，「１年生を迎える会」「縦割り活動」「運動会」など６年生が中心となって運営をしていくことになります。

また，クラス代表（代表委員）が集まった話し合いの場「代表委員会」にも出席します。

＊さて，この代表委員会に出席する代表委員（クラス３名）の仕事について説明をした後，「やってみたい人」を募りました。希望を確認する前に，次のような話をしました。

「やってみよう」と考えている人はもちろん「出来るかな？」と迷っている人も立候補してみなさい。

先生が責任を持って必ず助けてあげます。

しかし，代表委員会は休み時間に行われるので「遊びの時間がとられるのはイヤだ」と思う人は絶対に立候補しないでください。そういう人は，先生がいくら頑張ってもうまくはいかないからです。

＊学級委員長・副委員長・書記などに多くの子が立候補を表明しました。

その役職に就くことの出来なかった子の方が圧倒的に多いのですが，自らを成長させる場に立たせようと一歩を踏み出したこれら全ての子に拍手をおくりたいと思います。

＊当時，学級のすべての代表を私はじゃんけんで決めていました。

「やる気」さえあれば，教師がそれを支えるのは使命だと感じていたし，

子供の選挙だといつも代表が絞られてしまうからと考えていたからです。

教職１年目からこのことは貫いてきましたが，時には「子供の選挙の在り方」について
ベテランの先生と論争したこともありました。

今では良い思い出です。

謙虚さ（No4）

『私を含めて教師は，自分の教育的熱心さを省みる謙虚さに欠けている。熱心さは免罪符にならないのである。「愛のムチなら何でもいい」と自分で自分におぼれているのである。問題なのは熱心さではない。教育を仕事にしている人間が，子供に熱心であるのは当たり前である。プロならば，言うのも書くのも恥ずかしいぐらい当たり前のことである。（中略） 問題なのは，子供にとって価値ある熱心さであったかどうかである。』

（向山洋一著 「教育格言集　～プロ教師への努力の源泉～」）

＊教職というこの仕事に対して，いつも謙虚でありたいと思っています。

上手くいかなかった時，子供が思うようにならなかった時，それは自分の仕事に甘さがあったと思える教師でありたい考えたい，いや考えられる教師であり続けたいと考えています。

＊以前学級担任をしていた時に，帰りの会で子供たちとある約束していたことがありました。

それは，「帰りの会の時に，雨が降っていたらいつもの帰りの会のプログラムはやめて，恐い話を教師がする」というものでした。

一人残らずとは言いませんが子供たちは恐い話が大好きです。

担任のつたない話ではありますが，当時雨の日を楽しみにする子供も少なくはありませんでした。

＊当時の話を続けます。6 校時が終わり，帰りの会。

窓の外で雨が降っていることが分かると，さあ子供たちはせわしく動きます。

各自が帰りの支度をサッと済ませます。

ある子は，黙っていても教室の暗幕を閉めます。

ある子は，頼んでもいないのに教室の電気を消します。

これを自主性と呼べるかどうかは分かりませんが(笑)，こんな子供の積極的な動き，結構好きでした。

＊授業中，よそ見していたり，手いたずらしていたり，こんな子をよく注意してきました。

時には，かなりきつく注意したこともありました。

でもそれって考えようによっては，「教師の話に魅力がないから」ではないかとこの雨の日の帰りの会を思うにつけ感じるようになりました。

子供たちがよそ見をしたり，手いたずらをしたりするのは，教師側に問題があるのでは，と思うようになりました。

もちろん，単に子供のお行儀の悪さ（？）もあるかもしれませんが，まずは自分の仕事を疑ってみるという姿勢は大切だと感じています。

私たちは，年齢を重ねても常に伸びしろのある仕事に就いている（まだまだがんばれる余地がある），そう思いたいものです。

＊さあ，新年度がスタートしておよそ3週間，本格的に学習に取り組んでいます。

学年始めの【張り切る気持ち】を子供も教師も大切にしたいものです。

子供の65％（No3）

＊2018 年のコンサルティングとテクノロジーで世界を牽引する IBM の報告書では，「子供の 65%は将来，今存在しない仕事に就く」と発表しています。この数字の裏付けや立証がどのようにされているのかは分かりませんが，少なくても，現在小学生の子供たちが，将来未知の職業に就く可能性は高いのだと思います。

＊職業と言えば，最近「教員の世界も人手不足」といった趣旨の報道を職業がら良く耳にします。就業する絶対的な人口数の関係もあるのでしょうが，実のところ，もっと根が深い問題があるような気がします。

＊あまり良い例えではありませんが，普段あまり人気の無い店が「閉店セール」などといって安売りセールなど実施しても集客は見込めないのだと思います。そこには，客にとってどこかワクワクするような感覚が生じないからです。

＊ですから教員を増やすには，単に採用する条件を簡易にするとか，待遇面を改善するということではダメなような気がします。
子供たちから見て
「先生ってすごいんだなぁ」とか
「先生の仕事って楽しそうだなぁ」
と思えるような魅力が伝わらなければダメなのだと思います。
プロである教師が子供の前で難しい顔や疲れた顔だけを見せていてはどうにもならないというわけです。
プロであるため毎日が修行です。

心が動いたこと（No2）

タイトル：「学校が始まって」

分散登校のときは，教室が広く感じたけれど，

今日初めて35人が集まると

せまく感じて

でも，それがとてもうれしかったです。

いつもは，

「授業あと何分かな」と思っていたけれど

今日は，

「まだ，授業続いてほしいな」

と思っていました。

明日も学校に行くのが楽しみです。

＊令和2年の春，甲斐市内すべての小学校で分散登校が行われていた時がありました。

このミニ作文は，分散登校が終わり，ようやく通常の登校になったときに5年生の女の子が書き記したものです。

＊書き手は，学校で一番，人数の多い学級に所属していました。

臨時休業や分散登校よりも「やっぱり学校」という素直な気持ちに救われます。

同時に，「やっぱり学校」に私達教師は応えていかなくてはなりません。

＊話は，始業式に戻りますが，校長から2年生以上の子供たちに宿題を出しました。

宿題は，こうです。

「家に帰ったら，お家の人がきっと，今度の担任の先生は誰？と聞くはずです。その時に担任の名前を伝えるだけではなくて担任の素晴らしいところをひとつ探しておいて伝えてください。」というものです。

さてさて，宿題の出来映えはどうだったでしょうか。

＊今年一年，どの子にとっても「今日が楽しく，明日が待たれる学校」でありますように。

願わずにはいられません。

始動しています（R5 年度　No1）

＊令和5年度がスタートしました。

子供たちはまだ春休みという時間のなかでしっかりと充電に努めていることだと思います。

（まさか，放電しっぱなしではないでしょうね）

ここまで大きな事故や病気といった連絡もなく，保護者の皆様にはあらためて感謝申し上げます。

＊令和4年度末に17名の職員が双葉東小から退職・転任を致しましたが，今週は，新たなメンバーを迎え入れ子供たちと良いスタートを切れるようにと学校は，４月３日から始動しています。

＊４月３日・４日・５日は会議詰めでした。

学校というところは「例年通りに踏襲」ということも少なくありませんが，やはり教育は創造的な営みであるので，その一年の方向性を決める年度当初の会議には十分な時間をかけておこないます。

＊４月５日の午後には，翌日行なわれる「入学式」の準備を職員で行いました。

分担された場所の掃除をしたり，教室の飾り付けをしたり・・・・。

新しく赴任してきた職員は「あれ，掃除用具はどこだろう」と始めは戸惑うことも多かっただろうと思われますが，もう立派な双葉東小チームの一人として活躍してくれました。

１１６名の新入生をあたたかく迎え入れる準備はしっかり整いました。

＊こうした準備や会議を終えた後も，職員は自分の担当している業務や担任する子供たちのための準備を遅くまで行っています。

個人差があるかもしれませんが，私自身は，この年度当初が一番忙しく，一番大変だと思っています。その上，心のどこかで「やり甲斐のある時間を過ごしさせてもらっている」と達観できない自分がいます。

まだまだ修行不足と言ったところでしょうか。

＊一方，職員はというと・・・今週は月曜日始まりなので，結構疲れもたまるのではと校長は心配をし「少し，ブレーキを踏んでみては・・・」とも思ったのですが，バイタリティあふれる仕事ぶりにあらためて感謝するばかりです。

きっと120％のパワーと心持ちで、子供たちとの新しい出逢いを創りだしてくれることだと思います。

新入生にとっては明日が，

在校生にとっては明後日が，

佳き日となりますように。